

学修成果の評価と 学修行動比較調査の 可視化について

川崎医科大学 IR室
伏谷 建造
増田 清士

かわらぬ思い、このさきも

50th Anniversary
Kawasaki Gakuen
since 1970

2019年8月22日
大学評価・IR担当者集会2019（於：神戸大学）
【R24】IR実務担当者セッション 報告③

川崎医科大学での取り組みについての 事例報告

- ① 学修成果のGPによる可視化の試み 伏谷
- ② 学修成果の自己評価による可視化 増田
(コンピテンス・コンピテンシー到達度調査)
- ③ ALCS学修行動比較調査 伏谷





川崎医科大学

二つの学位プログラム

医学部医学科 (2019年度学生数 783名)

医学研究科 (2019年度学生数 58名)

岡山県倉敷市に あります。



岡山県出身です。



洪野日向子プロ

川崎学園 倉敷市中庄地区 全景 (医療系の総合学園)



背景

「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」

中央教育審議会 平成30年11月26日

III. 教育の質の保証と情報公表

- 全学的な教学マネジメントの確立
- 学修成果の可視化と情報公表の促進
- 教育の質保証システムの確立



中央教育審議会大学分科会
教学マネジメント特別委員会検討会

把握・公表の義務付けが
考えられる情報の例

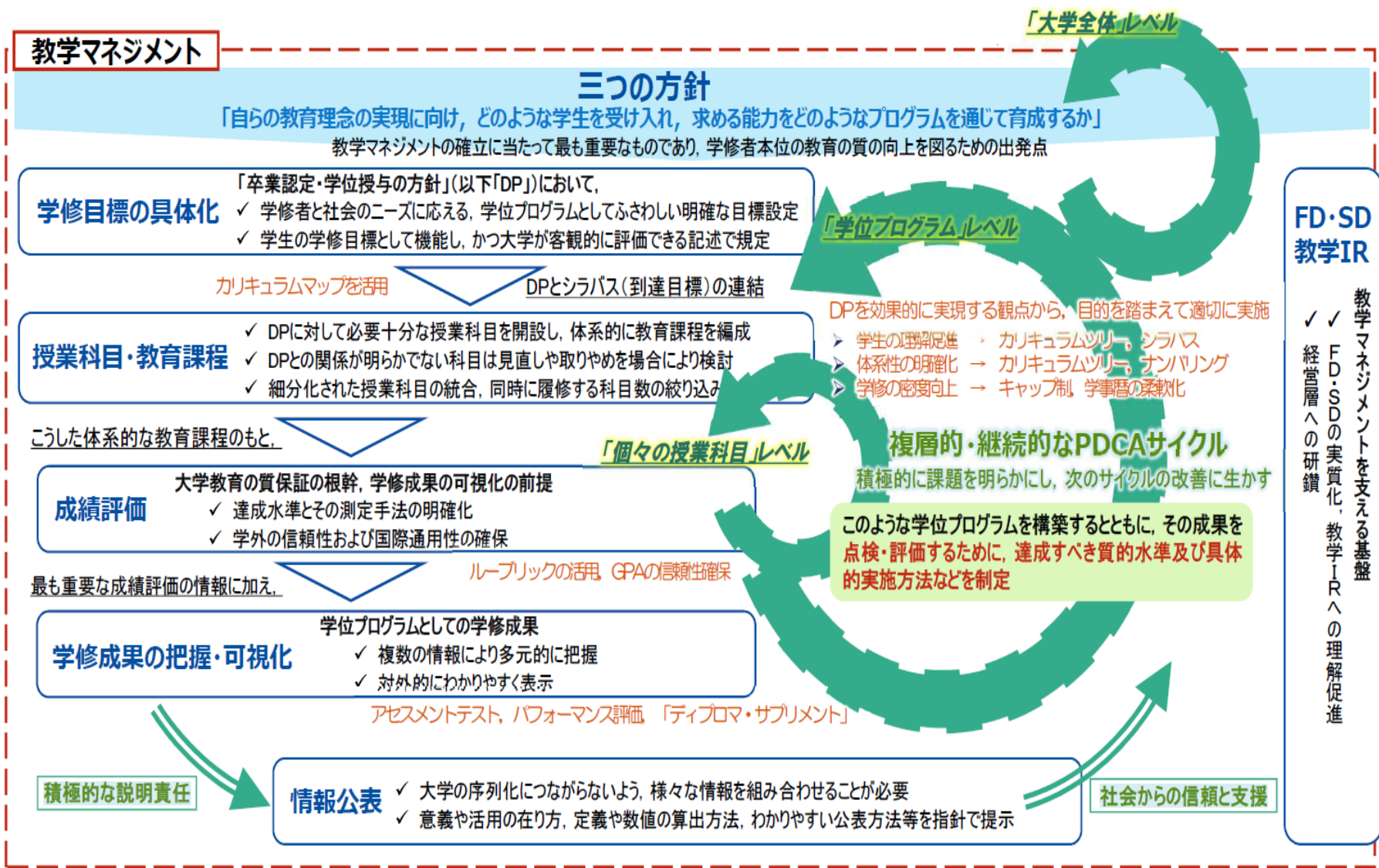
単位の取得状況
学位の取得状況
(進学率や就職率など)

学修時間
学生の成長実感・満足度
学生の学修に対する意欲等

教学マネジメント（案）

中央教育審議会大学分科会
教学マネジメント特別委員会
(第3回)H31.2.13 資料3 (改編)

- ▶ 教学マネジメントとは
- ▶ 教学マネジメント指針



教学マネジメント（案）

中央教育審議会大学分科会
教学マネジメント特別委員会
(第3回)H31.2.13 資料3 (改編)

- ▶ 教学マネジメントとは
- ▶ 教学マネジメント指針

教学マネジメント

三つの方針

「自らの教育理念の実現に向け、どのような学生を受け入れ、求める能力をどのようなプログラムを通じて育成するか」
教学マネジメントの確立に当たって最も重要なものであり、学修者本位の教育の質の向上を図るための出発点

学修目標の具体化

- 「卒業認定・学位授与の方針」(以下「DP」)において、
- ✓ 学修者と社会のニーズに応える、学位プログラムとしてふさわしい明確な目標設定
 - ✓ 学生の学修目標として機能し、かつ大学が客観的に評価できる記述で規定

カリキュラムマップを活用

DPとシラバス(到達目標)の連結

「大学全体レベル」

「学位プログラムレベル」

FD・SD
教学IR

教学マネジメントを支える基盤

✓ FD・SDの実質化、教学IRへの理解促進

授業	DP 卒業時到達目標（卒業時コンピテンス）	コンピテンス数
こうし	I. プロフェッショナリズム	6
成	II. コミュニケーション能力	5
最も重	III. 医学と関連領域の知識	4
学	IV. 医療の実践	7
	V. グローバル化する社会および国際社会への貢献	7
積	VI. 研究マインドの育成	3

※コンピテンス数：2018年度29個、2019年度32個

教学マネジメント（案）

中央教育審議会大学分科会
教学マネジメント特別委員会
(第3回)H31.2.13 資料3 (改編)

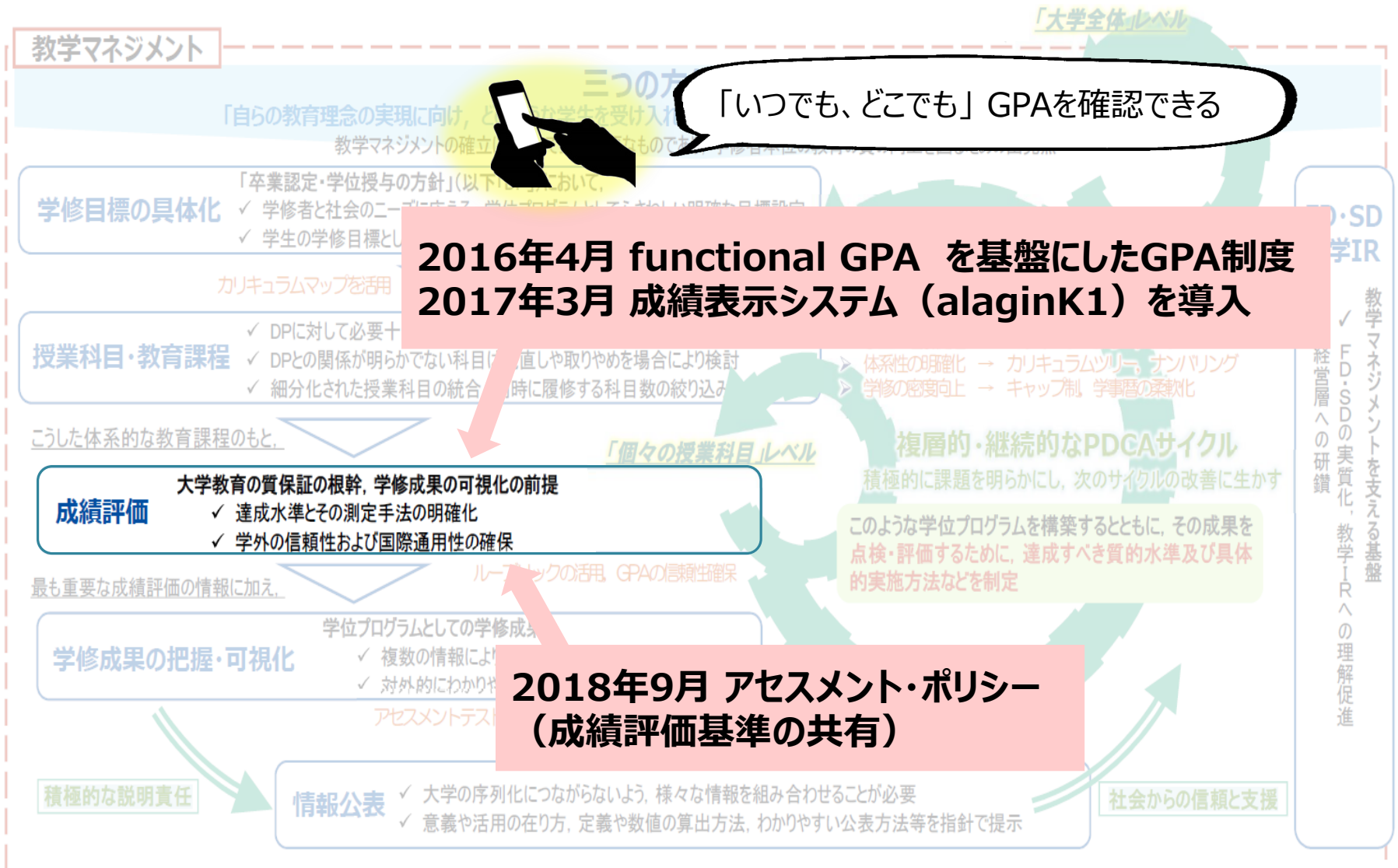
- ▶ 教学マネジメントとは
- ▶ 教学マネジメント指針



教学マネジメント（案）

中央教育審議会大学分科会
教学マネジメント特別委員会
(第3回)H31.2.13 資料3 (改編)

- ▶ 教学マネジメントとは
- ▶ 教学マネジメント指針



functional GPA

◆ GP

$$= (\text{評点} - 55) / 10 \quad \text{合格 (60点以上)}$$

$$= 0 \quad \text{不合格 (60点未満)}$$

◆ GPA

$$= \frac{(\text{科目のGP} \times \text{科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{単位数の総和}}$$

学修支援システム



教学マネジメント（案）

中央教育審議会大学分科会
教学マネジメント特別委員会
(第3回)H31.2.13 資料3 (改編)

- ▶ 教学マネジメントとは
- ▶ 教学マネジメント指針

教学マネジメント

三つの方針

- 自らの学びの成果（学修成果）や、その結果身についた能力を把握できる
- 到達目標の達成度をエビデンスとともに自ら説明できる

✓ 学生の学修目標として機能し、かつ大学が客観的に評価できる記述で規定

○ ODPに定める能力を備えた学生を育成できていること（教育成果）をエビデンスとともに説明できる

○ 把握・可視化した学修成果をPDCAサイクルに基づき適切に教育改善に活用できる

FD・SD
教学TP

学生

大学

学修成果の把握・可視化

学位プログラムとしての学修成果

- ✓ 複数の情報により多角的に把握
- ✓ 対外的にわかりやすく表示

アセスメントテスト、パフォーマンス評価、「ディプロマ・サプリメント」

このような学位プログラムを構築するとともに、その成果を点検・評価するために、達成すべき質的水準及び具体的実施方法などを制定

主たる基盤
具化、教学IRへの理解促進

積極的な説明責任

情報公表

- ✓ 大学の序列化につながらないよう、様々な情報を組み合わせることが必要
- ✓ 意義や活用の在り方、定義や数値の算出方法、わかりやすい公表方法を指針で提示

社会からの信頼と支援

本学で実施されている各種調査

- 私立医科大学・医学部 学生生活実態調査
74問 全学年
主体：日本私立医科大学協会
頻度：5年に1度
- 私立医科大学・医学部入学者に関するアンケート
18問 1年
主体：日本私立医科大学協会
頻度：2007年より参加 毎年4月
- 卒業予定者へのアンケート
50問 6年
主体：川崎医科大学
頻度：2013年より 毎年2月
- 川崎医科大学 学生生活実態調査
45問 全学年
主体：川崎医科大学
頻度：2013年より 毎年9月
- ALCS学修行動比較調査
87問 1・3・5年 **今回報告**
主体：教学比較IRコモンズ
頻度：2017年より 毎年1月
- コンピテンス達成度調査
32x4項目 2~6年 **今回報告**
主体：川崎医科大学
頻度：2019年度4月より

全国学生調査 (2019年度プレ開催：本学は未実施)

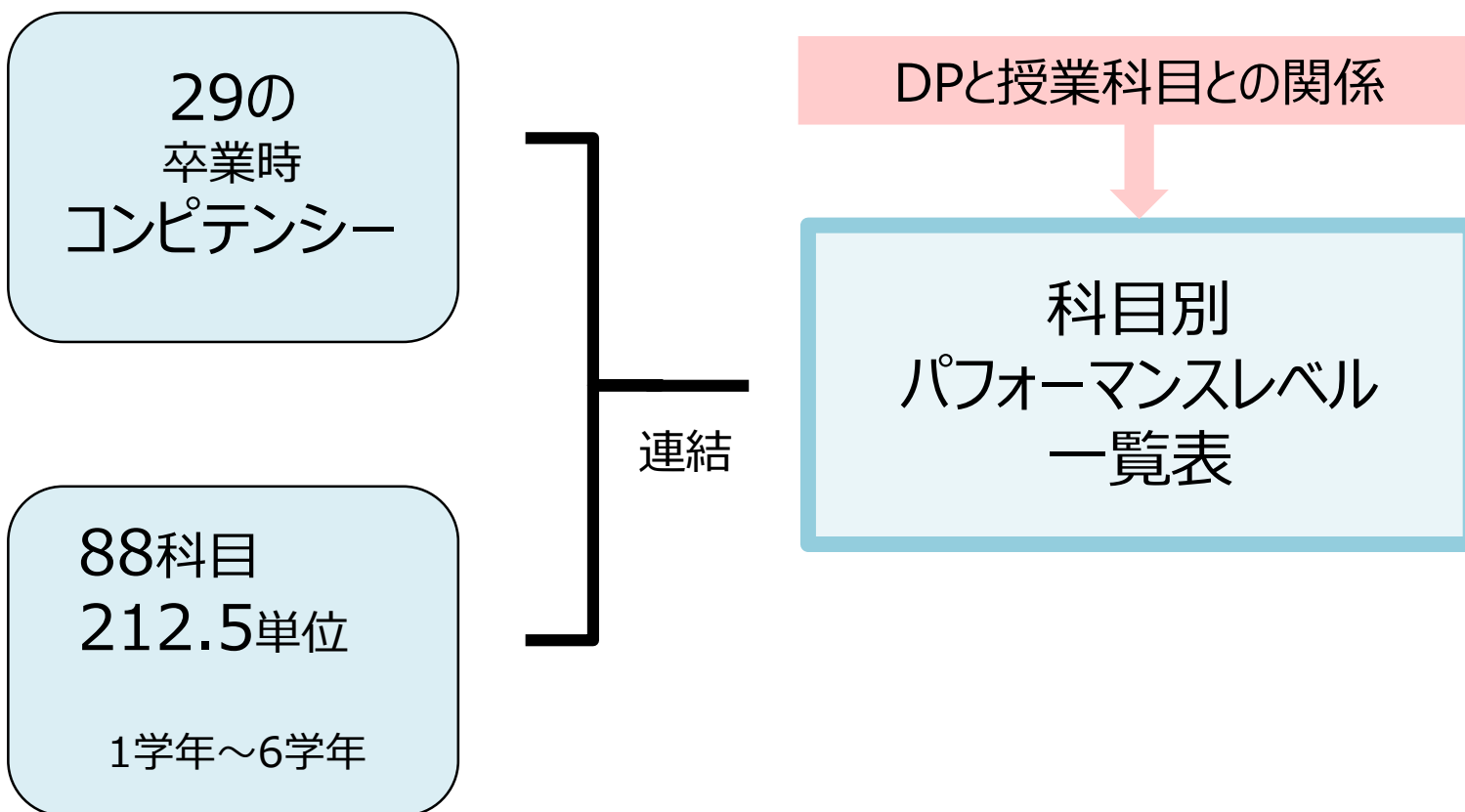
主体：文部科学省
国立教育政策研究所

川崎医科大学での取り組みについての 事例報告

- 👉 ① 学修成果のGPによる可視化の試み 伏谷
- ② 学修成果の自己評価による可視化 増田
(コンピテンス・コンピテンシー到達度調査)
- ③ ALCS学修行動比較調査 伏谷



2018年度より 成果基盤型の教育体系に移行



考え方・方法

任意の対象区間について (科目数 n)

GP 単位数



科目のGPベクトル n 行 1 列 (sGP_j)

単位数に関する $m \times n$ の行列 (t_{ij})

$$cGP_i = \frac{\sum_{j=1}^n t_{ij} \times sGP_j}{\sum_{j=1}^n t_{ij}}$$

科目のGPA = コンピテンシーのGPA

コンピテンシーのGPベクトル m 行 1 列 (cGP_i)

卒業時コンピテンシー (m)

科目	1	2	2	2	2	1.5	1.5	1.5	0.5	...	1	2	2	2	1.5	1.5	1.5	0.5
1. 個人の内省を奨励し、自身の学習や社会生活に貢献することができる。	1	1	1	1	1	1	1	1	1	...	1	1	1	1	1	1	1	1
2. 国際に活躍する社会貢献者となること。	1	1	1	1	1	1	1	1	1	...	1	1	1	1	1	1	1	1
3. 最先端技術について理解し、それに基づいて行動できる。	1	1	1	1	1	1	1	1	1	...	1	1	1	1	1	1	1	1
4. 高度学習や英語学習の期待を高め、自身の向上に結びつけることができる。	1	1	1	1	1	1	1	1	1	...	1	1	1	1	1	1	1	1
5. 多様な背景や知識を尊重し、国際性を理解し、実践できる。	1	1	1	1	1	1	1	1	1	...	1	1	1	1	1	1	1	1
6. 心身ともに健康に育ち育める。	1	1	1	1	1	1	1	1	1	...	1	1	1	1	1	1	1	1
7. 社会・世界の発展に貢献し、具体的な課題を解決することができる。	1	1	1	1	1	1	1	1	1	...	1	1	1	1	1	1	1	1
8. 高度なソフトウェア開発を理解し、内閣や人材開発を担うことができる。	1	1	1	1	1	1	1	1	1	...	1	1	1	1	1	1	1	1
9. 伝統・礼節と倫理観を持って、個人と関ることができる。	1	1	1	1	1	1	1	1	1	...	1	1	1	1	1	1	1	1
10. 自身の進路を明確にし、適切な学習を用いて進路を決定することができる。	1	1	1	1	1	1	1	1	1	...	1	1	1	1	1	1	1	1
11. 適切な指導を促して、進学や就職に向けた学外活動を推進することができる。	1	1	1	1	1	1	1	1	1	...	1	1	1	1	1	1	1	1
12. 人々の暮らしの向上や課題を解決することができる。	1	1	1	1	1	1	1	1	1	...	1	1	1	1	1	1	1	1
13. 高度なソフトウェア開発や課題の解決に貢献することができる。	1	1	1	1	1	1	1	1	1	...	1	1	1	1	1	1	1	1
14. 高度なソフトウェア開発や課題の解決に貢献することができる。	1	1	1	1	1	1	1	1	1	...	1	1	1	1	1	1	1	1
15. 高度なソフトウェア開発や課題の解決に貢献することができる。	1	1	1	1	1	1	1	1	1	...	1	1	1	1	1	1	1	1
16. 高度なソフトウェア開発や課題の解決に貢献することができる。	1	1	1	1	1	1	1	1	1	...	1	1	1	1	1	1	1	1
17. 高度なソフトウェア開発や課題の解決に貢献することができる。	1	1	1	1	1	1	1	1	1	...	1	1	1	1	1	1	1	1
18. 高度なソフトウェア開発や課題の解決に貢献することができる。	1	1	1	1	1	1	1	1	1	...	1	1	1	1	1	1	1	1
19. 高度なソフトウェア開発や課題の解決に貢献することができる。	1	1	1	1	1	1	1	1	1	...	1	1	1	1	1	1	1	1
20. 高度なソフトウェア開発や課題の解決に貢献することができる。	1	1	1	1	1	1	1	1	1	...	1	1	1	1	1	1	1	1

コンピテンス領域ごとの到達レベル

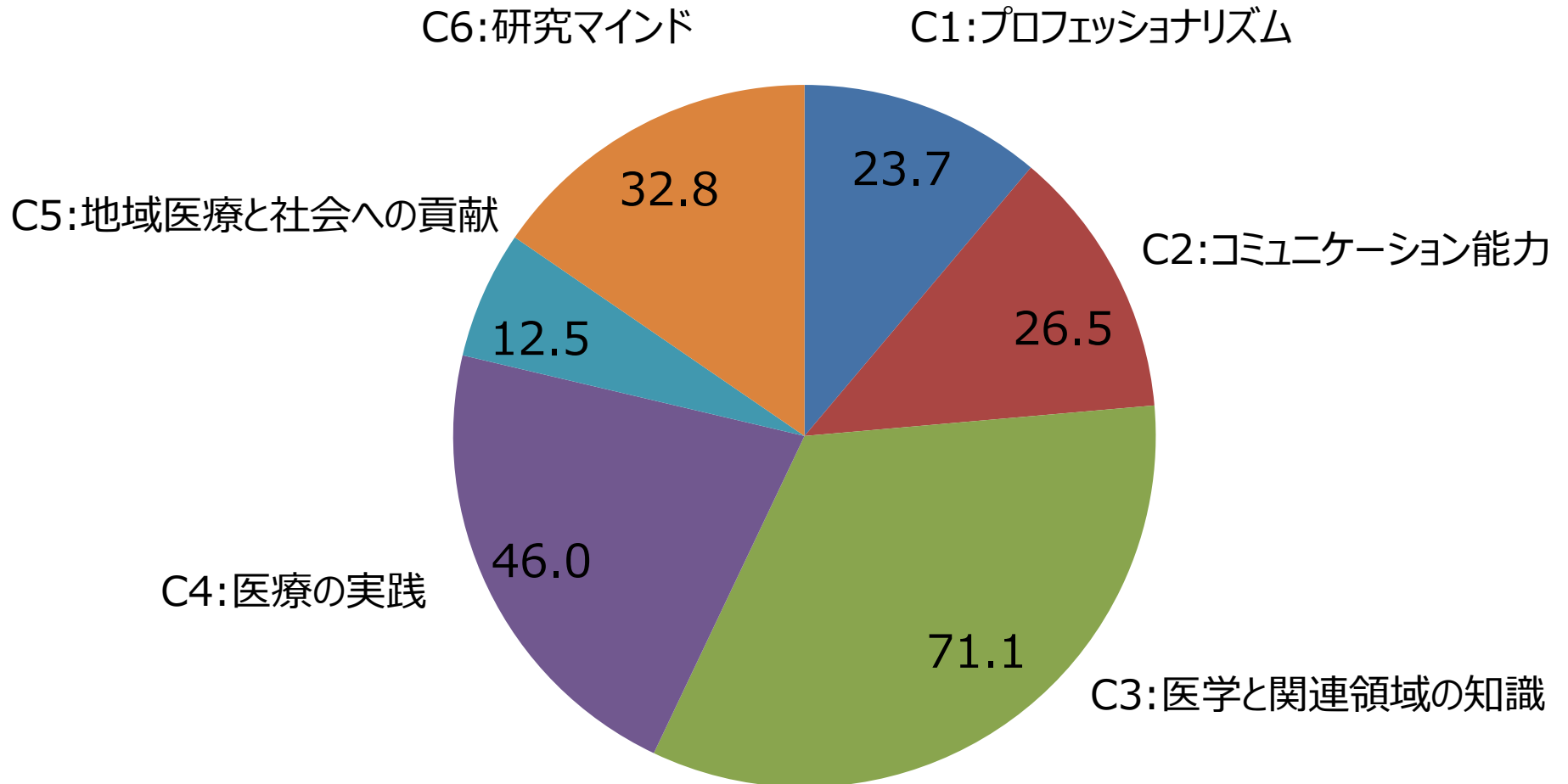
パフォーマンス レベル コンピテンス	Advanced	Applied	Basic	Basic		
	A	B	C	D	E	F
I. プロフェッショナリズム	診療の場で医師としての態度、習慣、価値観	医師としての態度、習慣、価値観を模擬的	基盤となる態度、習慣、価値観を示せるこ	基盤となる知識を示せることが単位認定の	修得の機会はあるが、単位認定に関係	修得の機会がない
<div style="display: flex; justify-content: space-around; font-size: 2em; font-weight: bold;"> 10 9 8 4 1 0 </div>						
II. コミュニケーション能力	実践できることが単位認定の要件である	実践できることが単位認定の要件である	知識修得・応用の態度、習慣を示せることが単位認定の要件である	知識修得・応用の態度、習慣を示せることが単位認定の要件である	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない	修得の機会がない
III. 医学	診療の場で	診療の場で	知識修得・応用の態度、習慣を示せるこ	基盤となる知識を示せることが単位認定の	修得の機会はあるが、単位認定に関係	修得の機会がない
IV.						
V. グローバルおよび国際社会への貢献			認定の要件である	要件である	ない	
VI. 研究マインド	実践できることが単位認定の要件である	理解と計画立案が単位認定の要件である	計画された研究の基礎となる技術を示せることが単位認定の要件である	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない	修得の機会がない

到達レベルを数値化し、
それをもとに、単位数を配分する

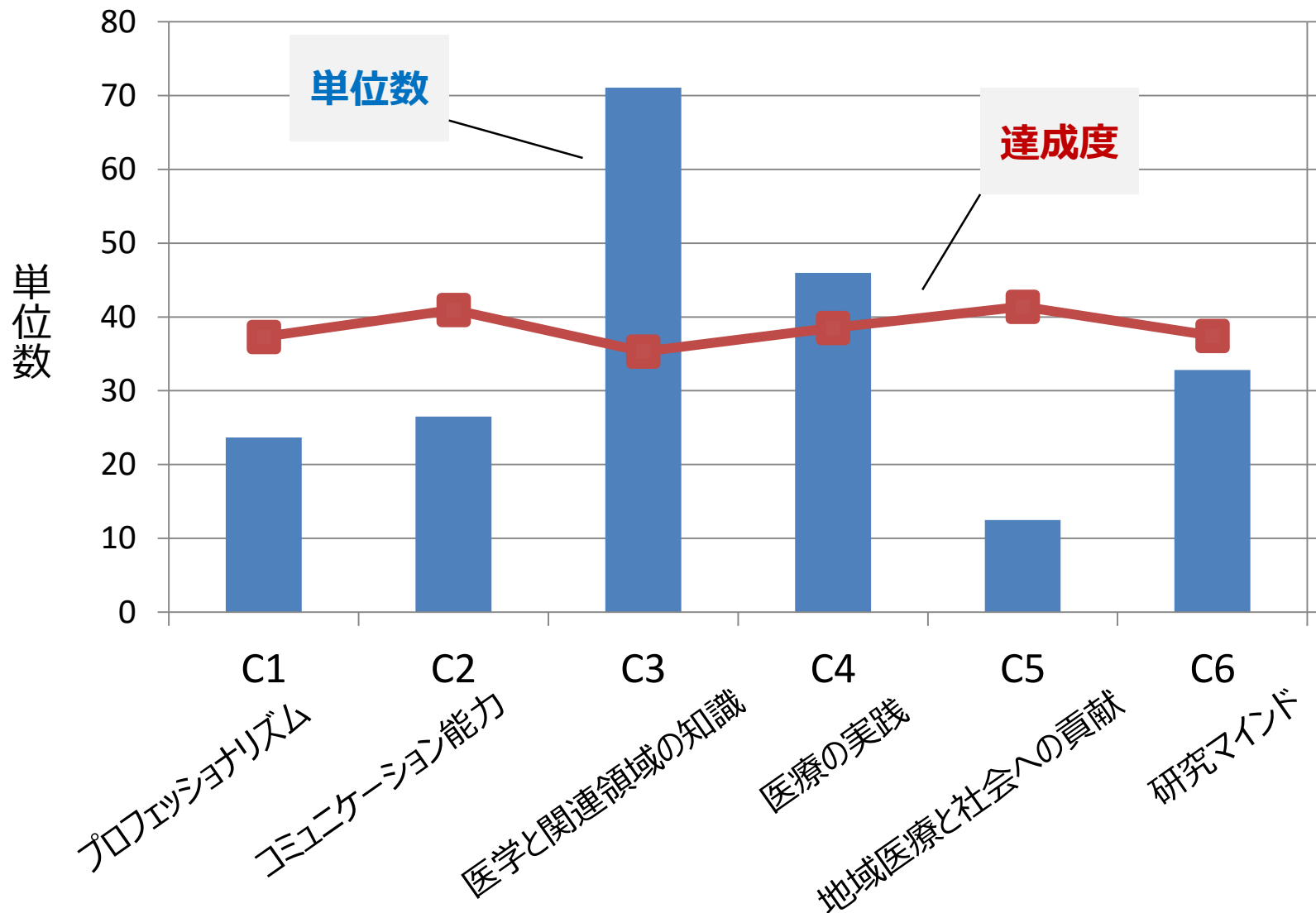
結果

6つのコンピテンスの配当単位数

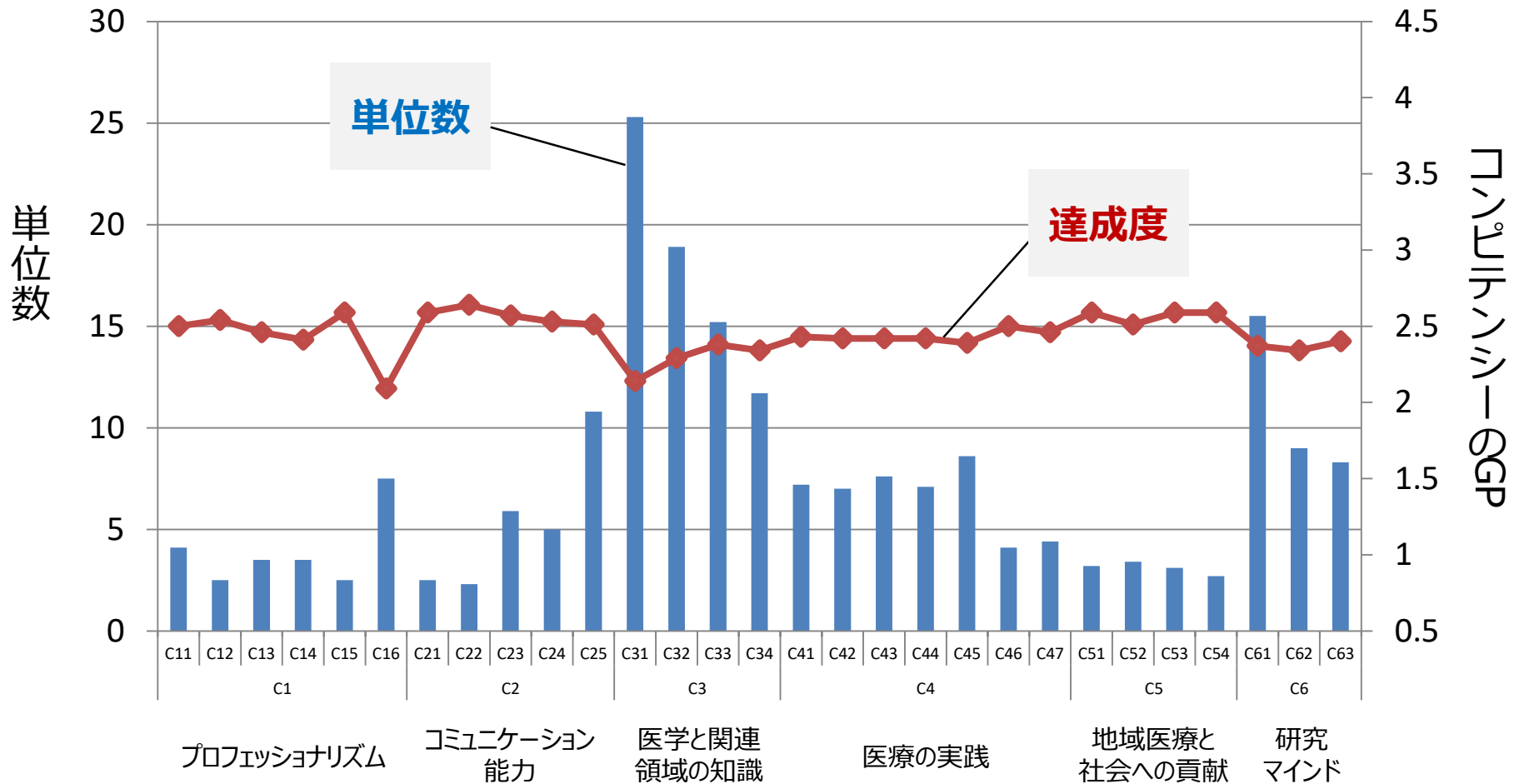
総単位数
212.5単位
(2018年度)



6つのコンピテンス 単位数と達成度 (GP)

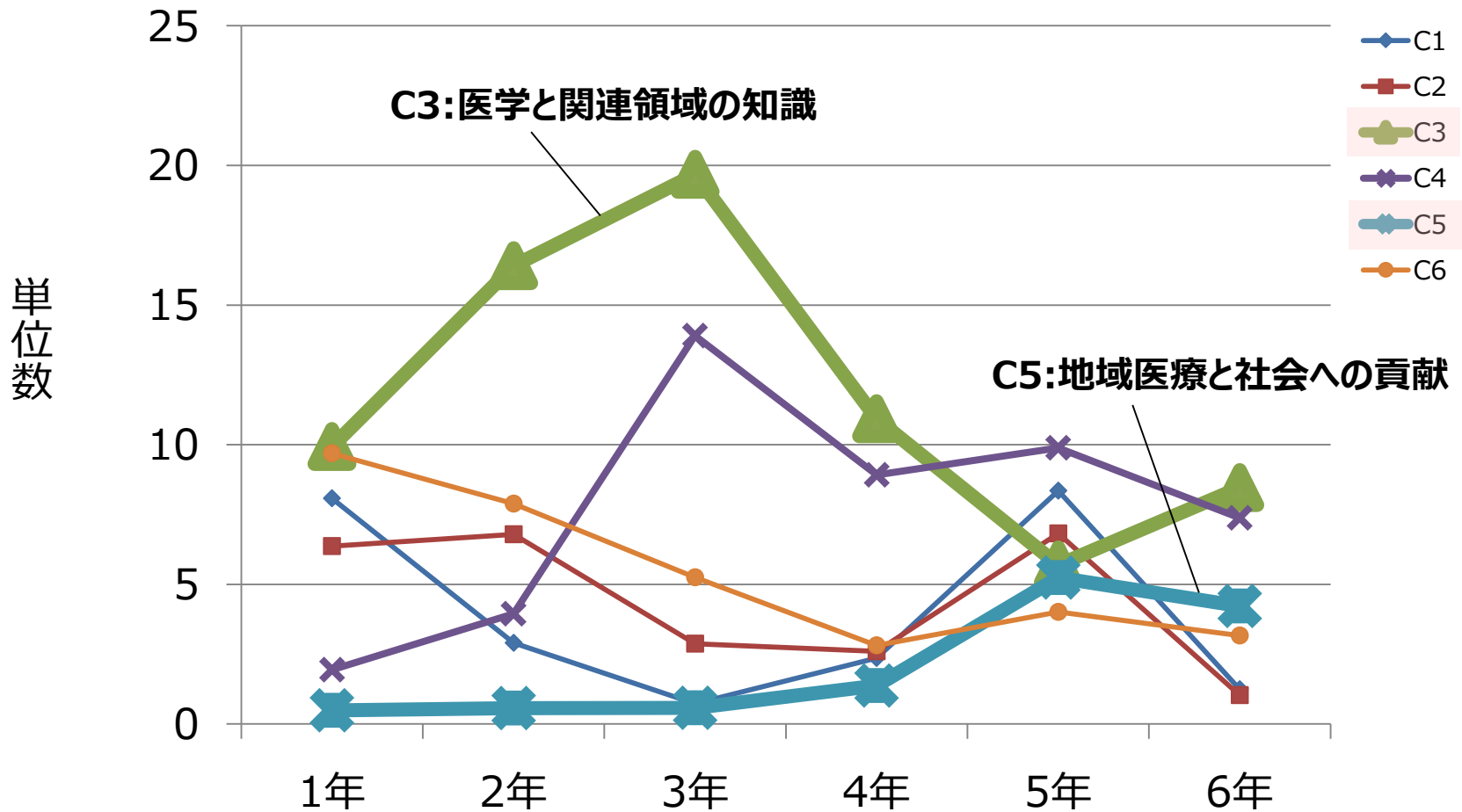


各コンピテンシー 単位数と達成度

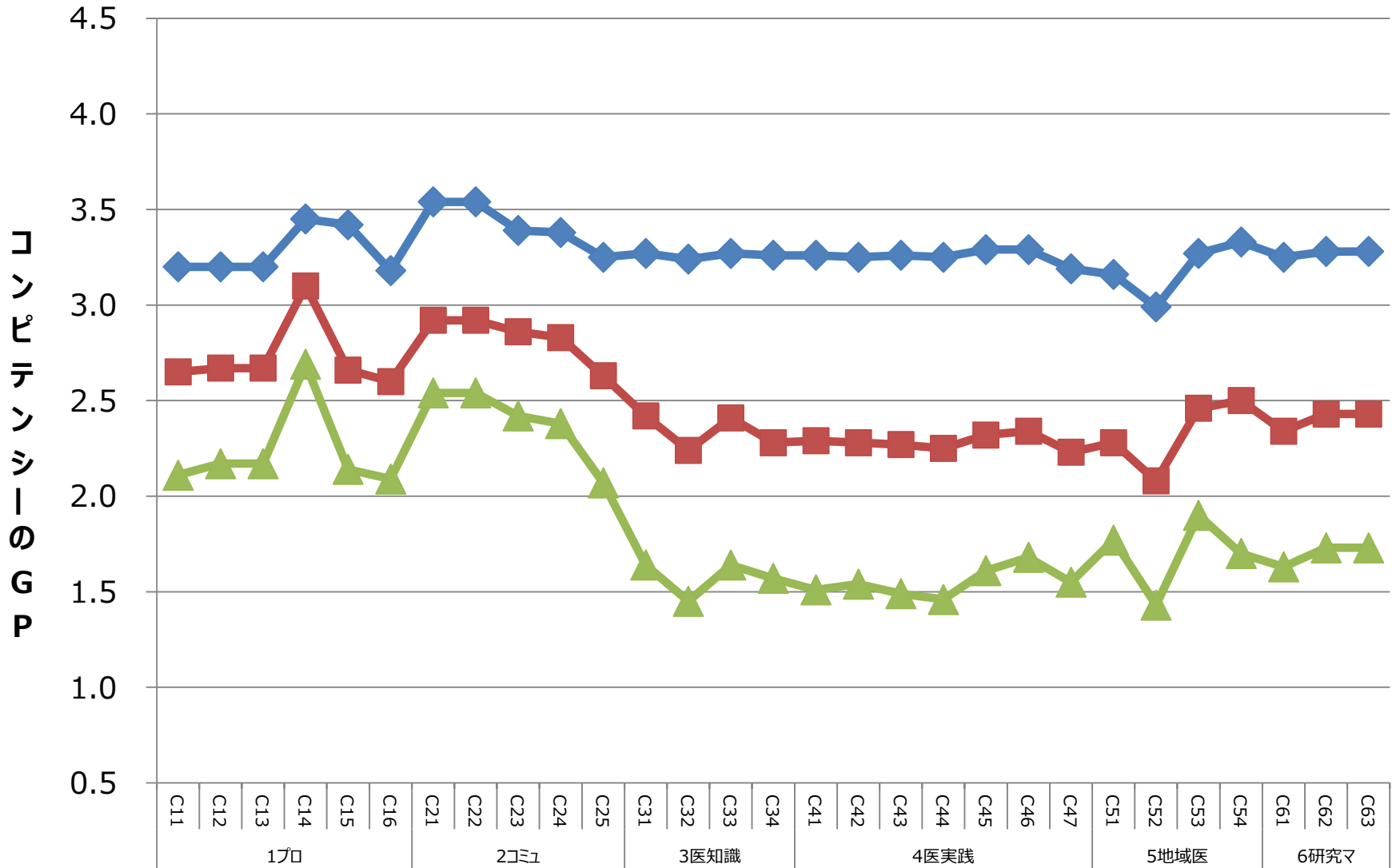


コンピテンス・コンピテンシー

コンピテンス配当単位数の学年への分配状況



GPで示したコンピテンシー到達度（学生群別）



以上の方法によって
コンピテンシーの配当単位数が分かれば

個人別、群別、学年別、科目別など

コンピテンシーの達成度や
カリキュラムの構成などを
詳細にプロファイルできる

課題

2020年から実施

○科目責任者が直接コンピテンシーに単位数を配分

○科目成績（GP）の適切な評価

妥当な評価方法

コンピテンシーに配分した単位数を反映する評価

成績評価基準の共有化



コンピテンシーは
科目成績のGPを用いて
客観的に評価できる

川崎医科大学での取り組みについての 事例報告

① 学修成果のGPによる可視化の試み 伏谷

👉 ② 学修成果の自己評価による可視化 増田
(コンピテンス・コンピテンシー到達度調査)

③ ALCS学修行動比較調査 伏谷



本学のコンピテンス

● 医師になるための基本的な資質

- I. プロフェッショナリズム
- II. コミュニケーション能力

● 専門的な医学知識と医療技術

- III. 医学と関連領域の知識
- IV. 医療の実践

● 地域社会と国際社会への貢献

- V. グローバル化する地域社会および国際社会への貢献

● 高い問題対応能力

- VI. 研究マインドの育成

本学のコンピテンス・コンピテンシー

I. プロフェッショナリズム

1. 個人の尊厳を尊重し、相手の感情や社会背景に共感を示すことができる
2. 医師に必要な社会規範を守ることができる
3. 医学倫理について理解し、それに基づいて行動できる
4. 共同学習や生涯学習の精神を保ち、自身の向上に結びつけることができる
5. 多職種および同職種連携の重要性を理解し、実践できる
6. 心身ともに適切に管理できる

II. コミュニケーション能力

1. 患者・家族の言葉に共感し、良好な意思疎通を図ることができる
2. 医療スタッフの役割を理解し、円滑な人間関係を築くことができる
3. 礼儀・礼節と協調性を持って、他人と接することができる
4. 相手の意見を傾聴し、適切な言葉を用いて意思を伝達することができる
5. 適切な表現を用いて、相手や場面に合わせた文章を作成することができる

本学のコンピテンス・コンピテンシー

Ⅲ. 医学と関連領域の知識

1. 人体各器官の正常な構造と機能を説明することができる
2. 全身におよぶ生理的変化や構造の異常を病因や病態と合わせて説明することができる
3. 病態から臨床症状、診断方法や治療方法を説明することができる
4. 誕生から発達・成長・加齢・死までの正常と異常、及び心理的背景の推移を説明することができる

Ⅳ. 医療の実践

1. 患者の主要な病歴聴取を適切に実践できる
2. 成人及び小児の身体診察を適切に実践できる
3. 臨床推論に基づく診断過程を実践できる
4. 患者の治療計画を策定できる
5. 最新の情報を適切に収集し、Evidence-based medicine (EBM) として活用できる
6. Problem oriented system (POS) の考え方を理解し、Problem oriented medical record (POMR) に則ったカルテ記載が正確にできる
7. 医療安全の考えを理解し、patient safetyを実践できる

本学のコンピテンス・コンピテンシー

V. グローバル化する社会および国際社会への貢献

1. 保健・医療・福祉の現状を理解し、その改善のための活動に参加できる
2. 疾病予防と健康増進に取り組むことができる
3. 地域医療の現状を把握し、プライマリ・ケアを実践できる
4. 災害医療の特殊性について理解し、災害発生時には適切に行動できる
5. 地域医療の中でのグローバル化を把握し、非日本語母語話者に対応できる
6. 保健・医療に関する国際的な課題を理解し説明できる
7. 日本の医療の特徴を理解し、国際社会への貢献の意義を説明できる

VI. 研究マインドの育成

1. 医学的発見の基礎となる科学的理論や考え方を理解することができる
2. 医学的な未解決分野の問題点や課題を発見することができる
3. 問題解決のための対策や方法論を掲示することができる

目的

1. 学生がコンピテンス・コンピテンシーの達成に関してどのように自己評価しているかを明らかにする。
2. コンピテンス・コンピテンシー間の達成度の差を明らかにする。

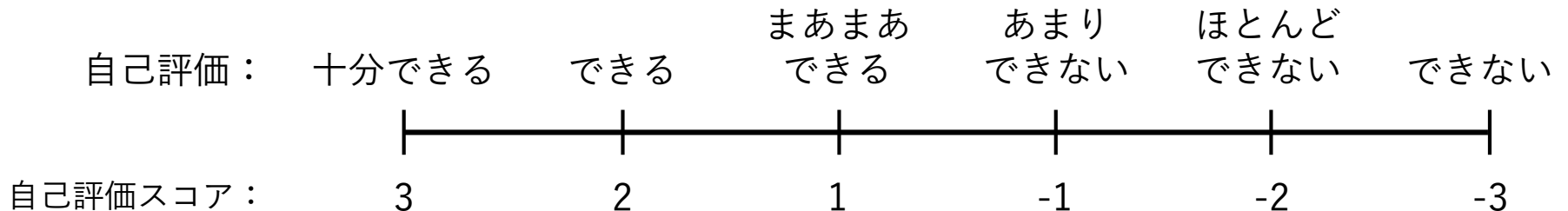
方法

【対象】

本学在学学生（2019年度 2学年から6学年在籍者）

【評価方法】

ポータルサイトを用い、全32コンピテンス・コンピテンシーに関して、**4つの観点**（知識として、態度・習慣・価値観として、模擬的現場で、臨床現場で）で、**6段階**の自己評価を行った。

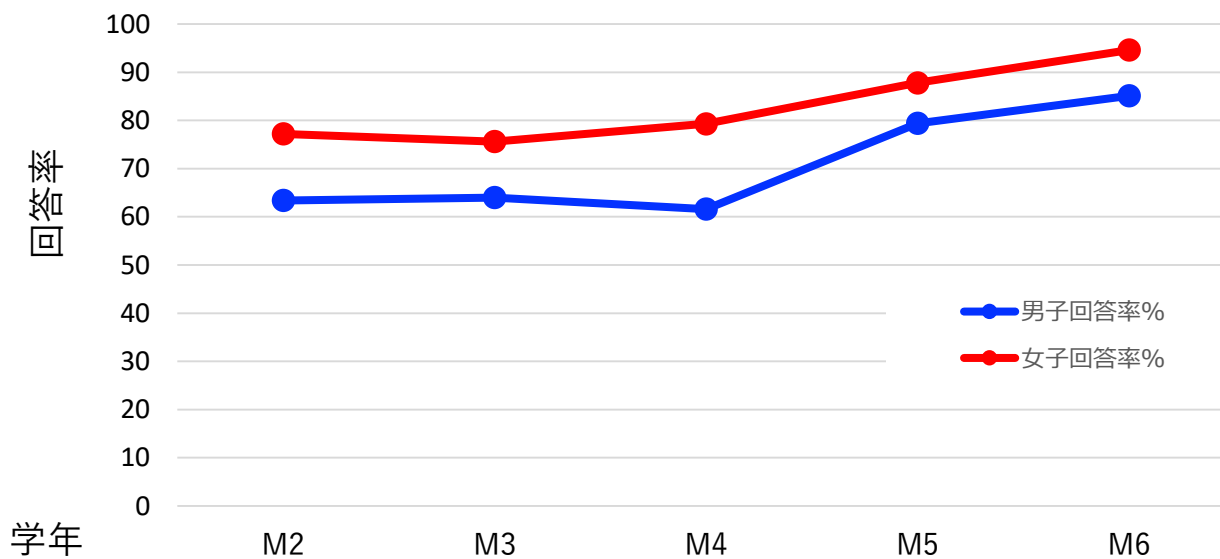


結果

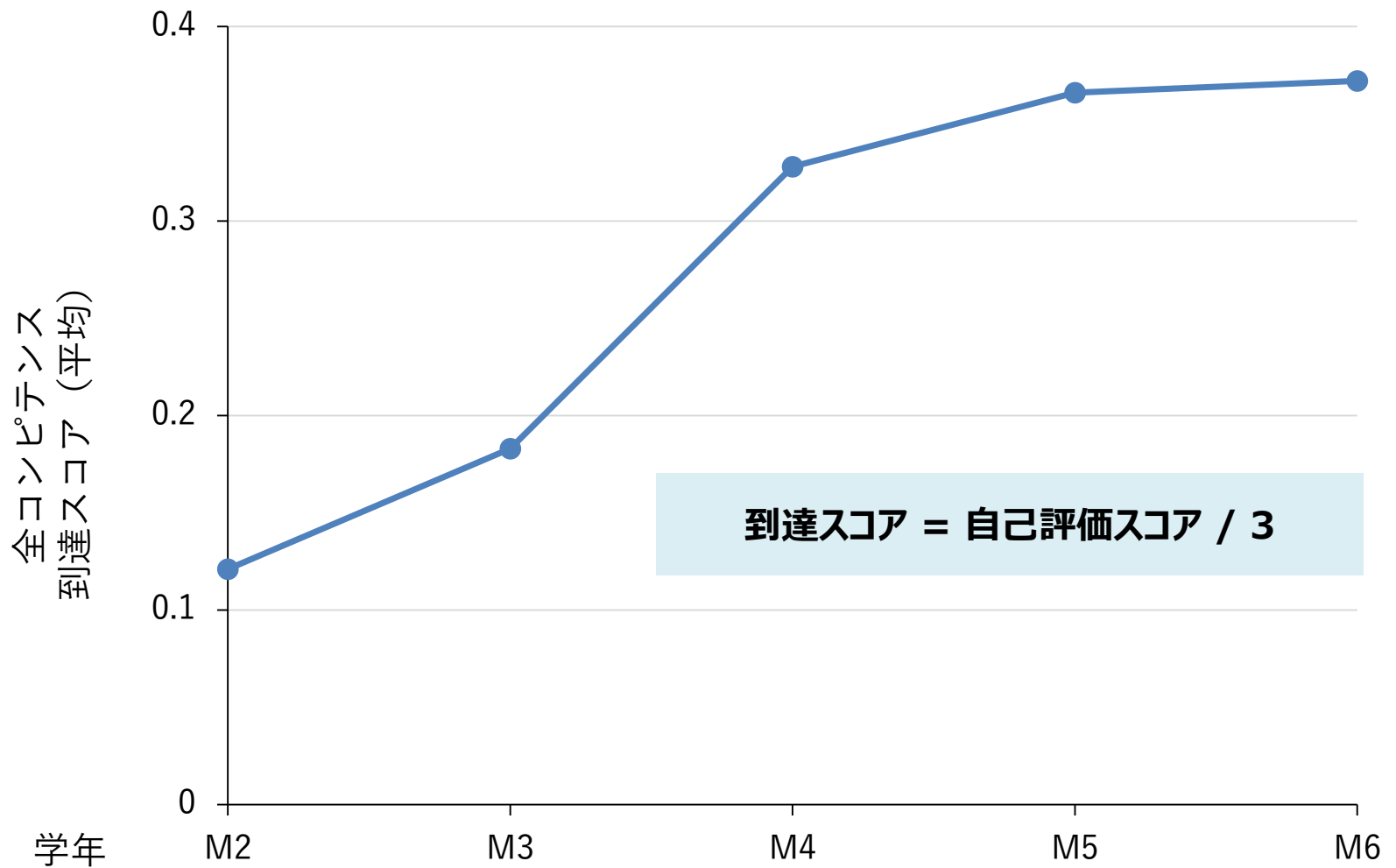
回答率

全回答率平均 74.7%

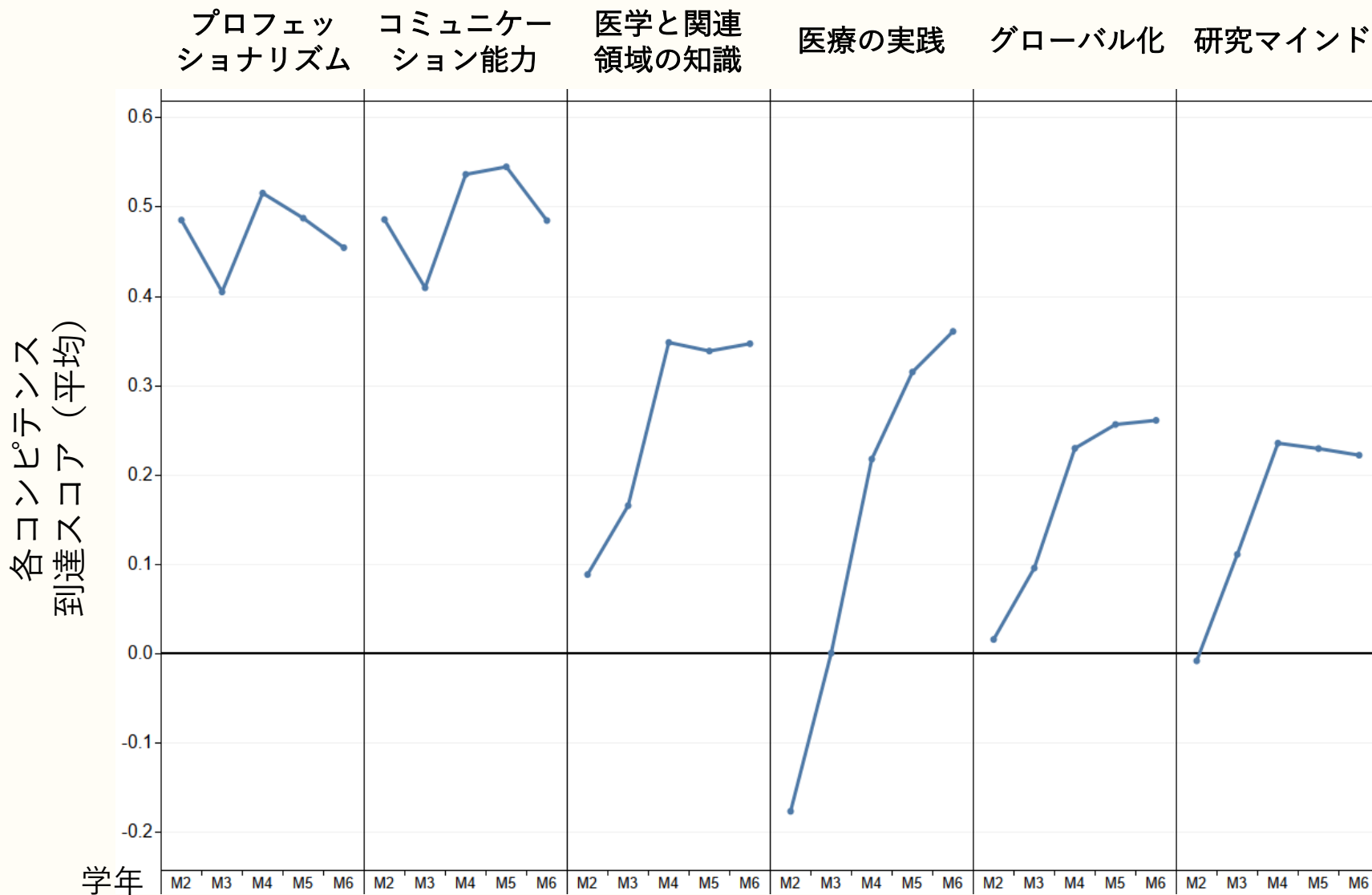
学年	在籍者数 (男/女)	回答者数 (男/女)	回答率% (男/女)
M2	139 (82/57)	96 (52/44)	69.1 (63.4/77.2)
M3	131 (86/45)	89 (55/34)	67.9 (64.0/75.6)
M4	144 (86/58)	99 (53/46)	68.8 (61.6/79.3)
M5	109 (68/41)	90 (54/36)	82.6 (79.4/87.8)
M6	124 (87/37)	109 (74/35)	87.9 (85.1/94.6)



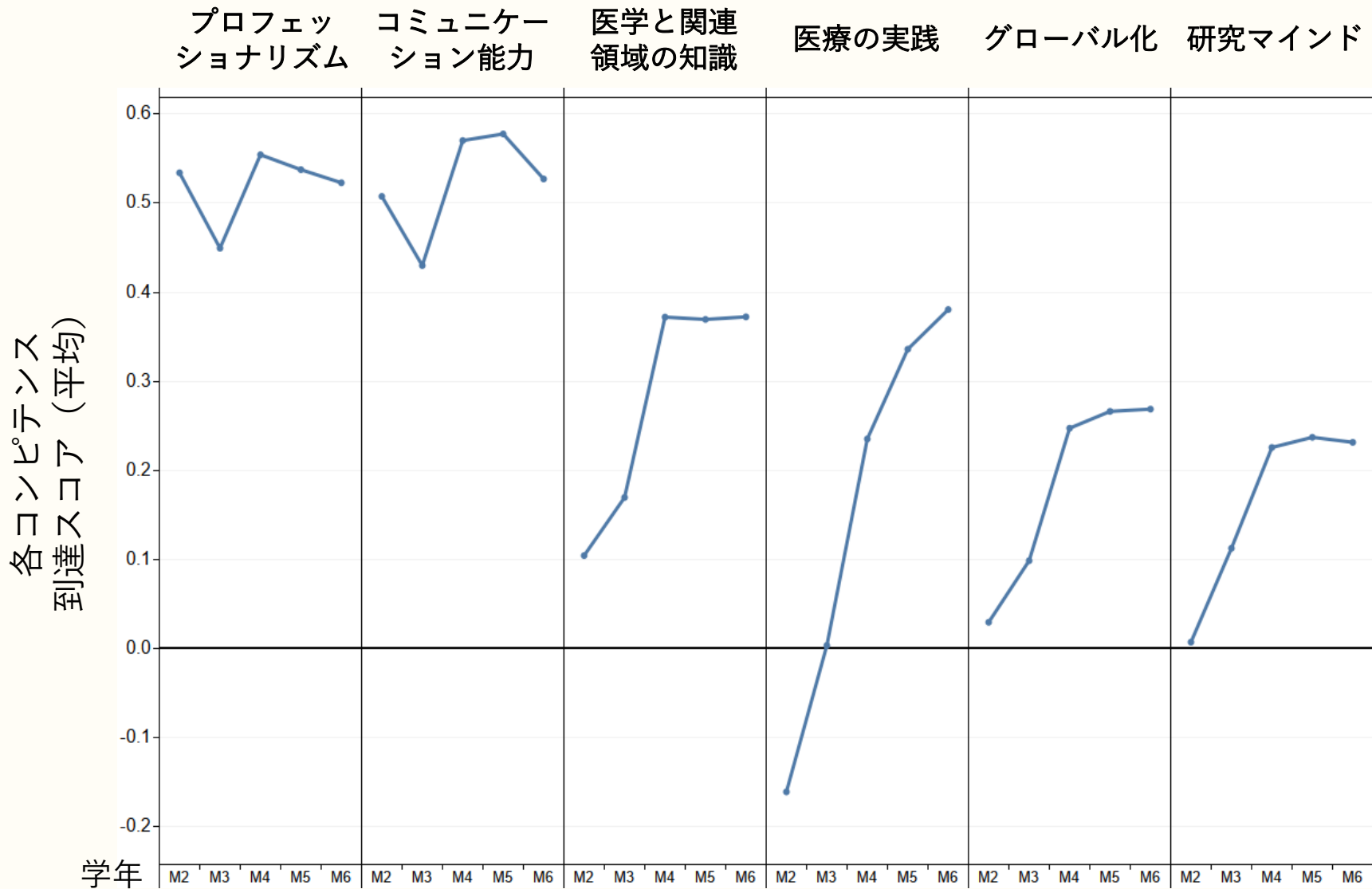
学年別 到達スコア



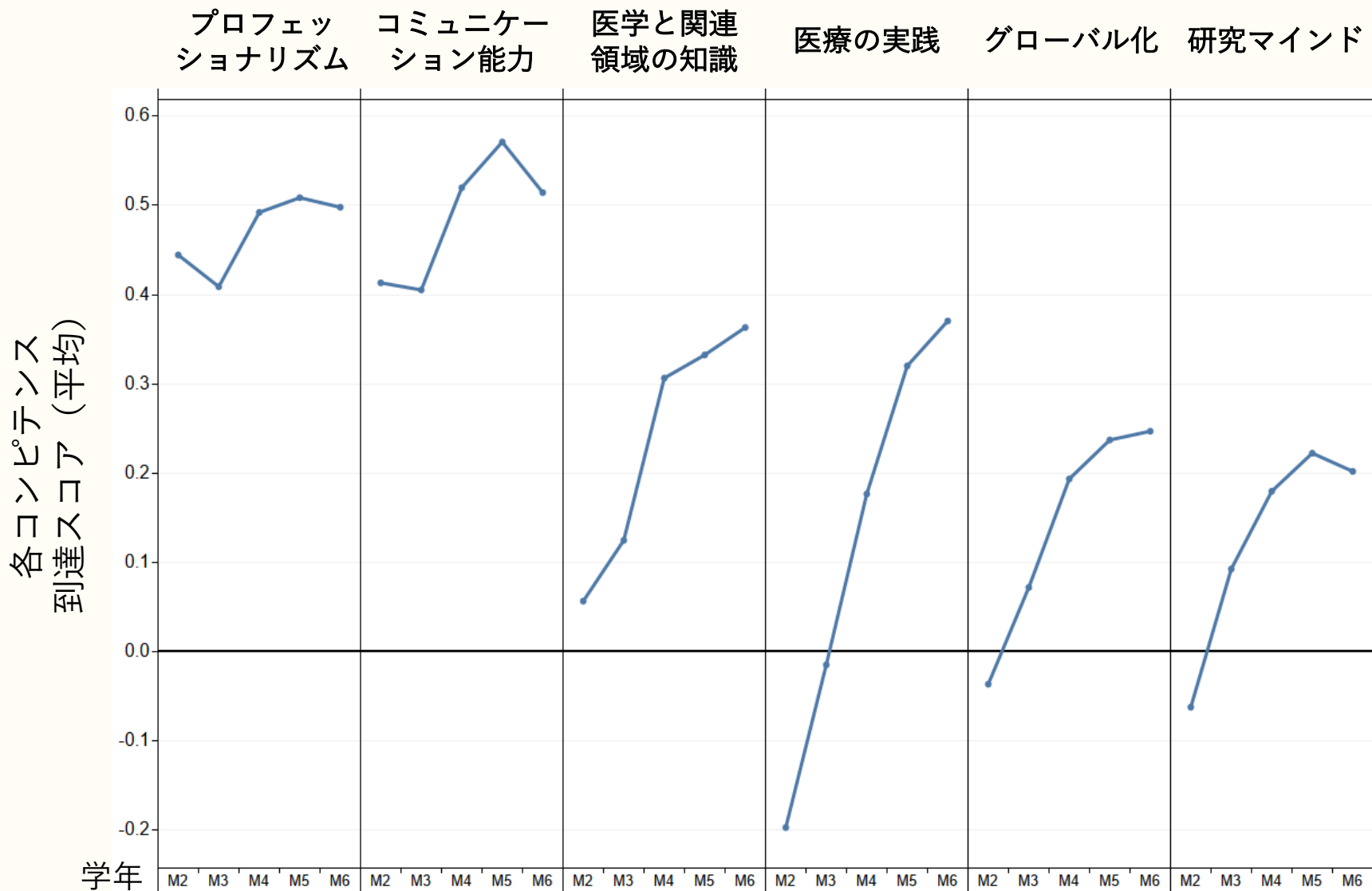
各コンピテンス到達スコアの推移 (知識)



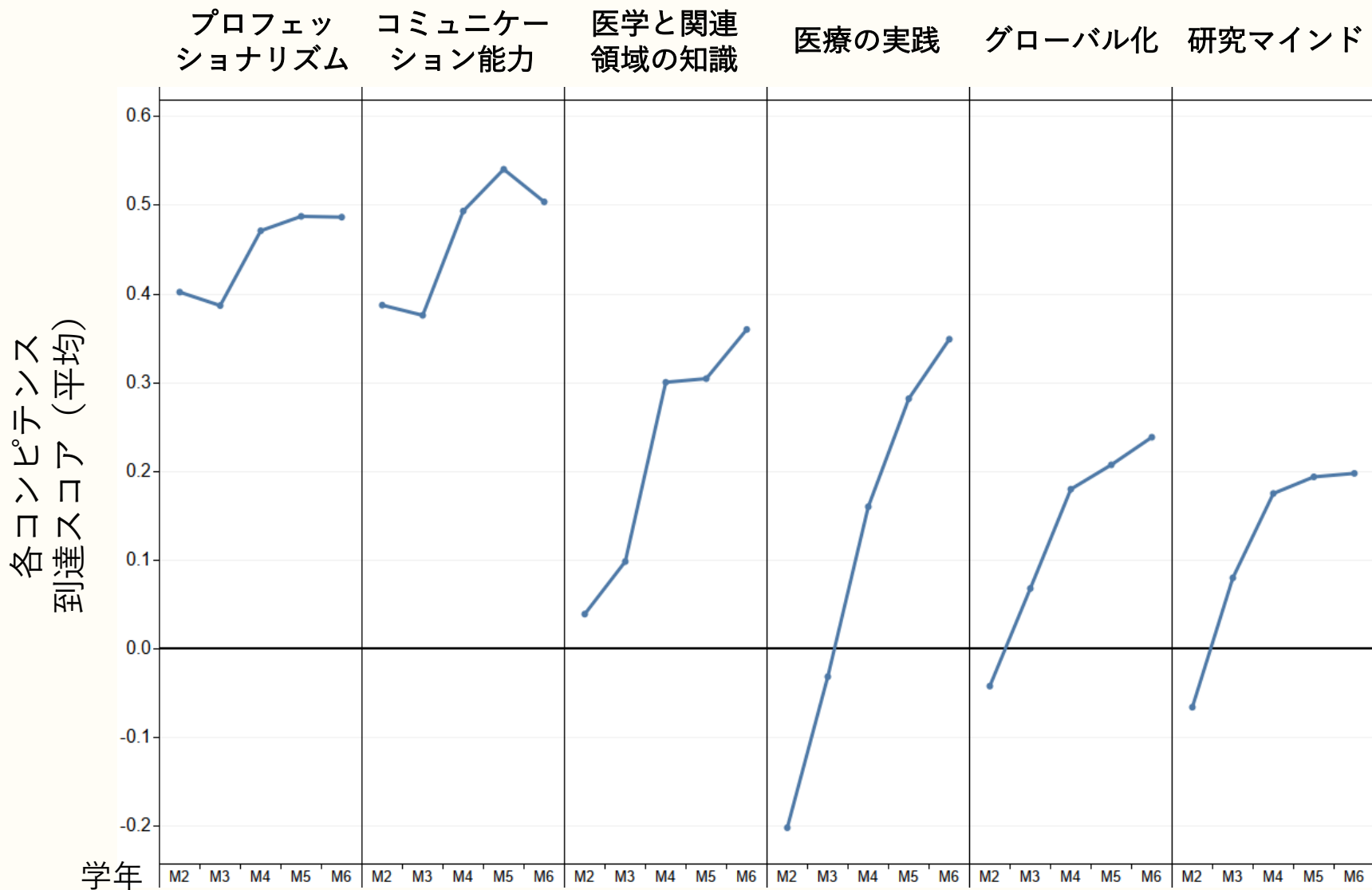
各コンピテンス到達スコアの推移 (態度・習慣・価値観)



各コンピテンス到達スコアの推移 (模擬的現場)



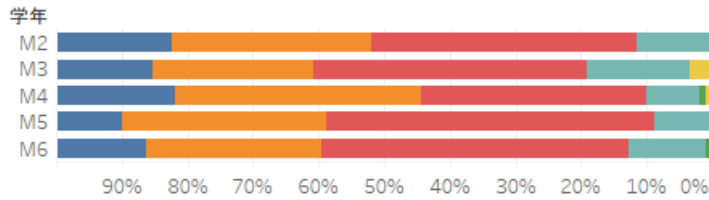
各コンピテンス到達スコアの推移 (臨床現場)



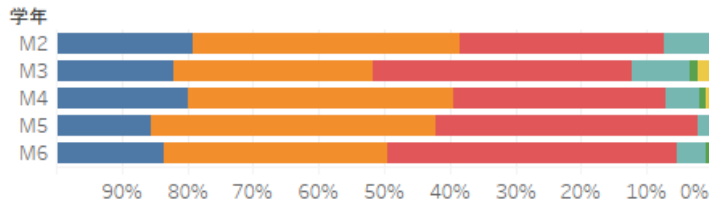
コンピテンシーの回答状況の例

個人の尊厳を尊重する

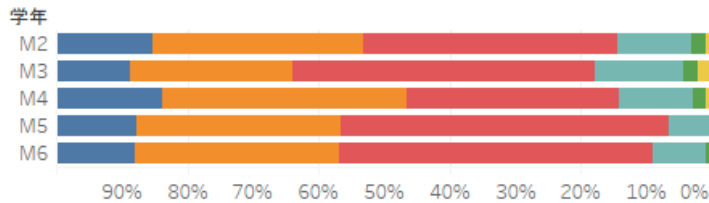
知識を



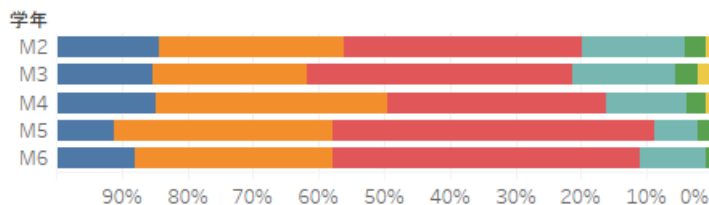
態度・習慣・価値観として



模擬的現場で

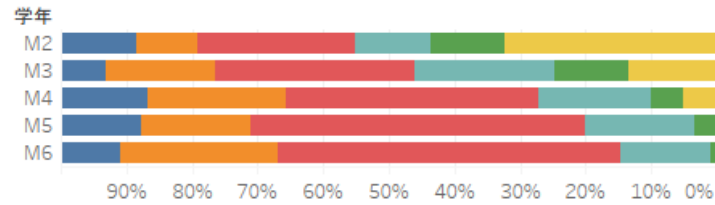


臨床現場で

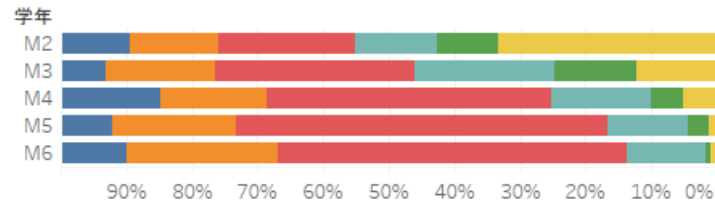


身体診察を適切に実践できる

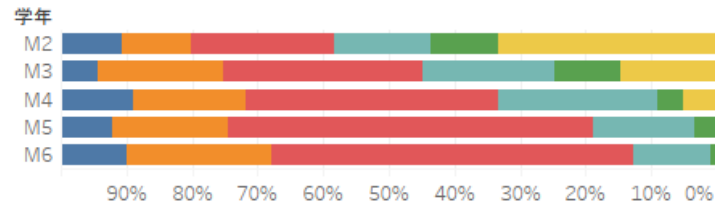
知識を



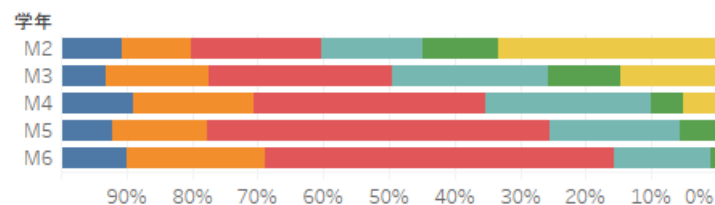
態度・習慣・価値観として



模擬的現場で



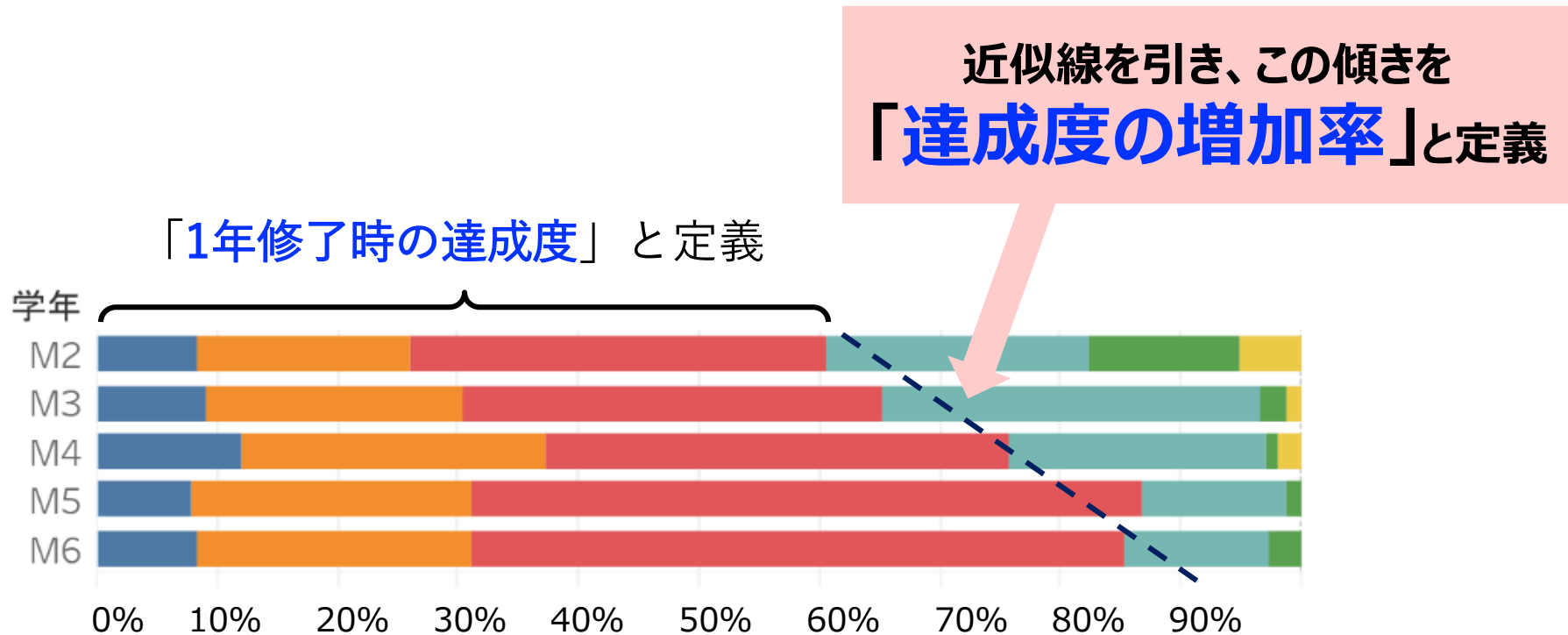
臨床現場で



回答

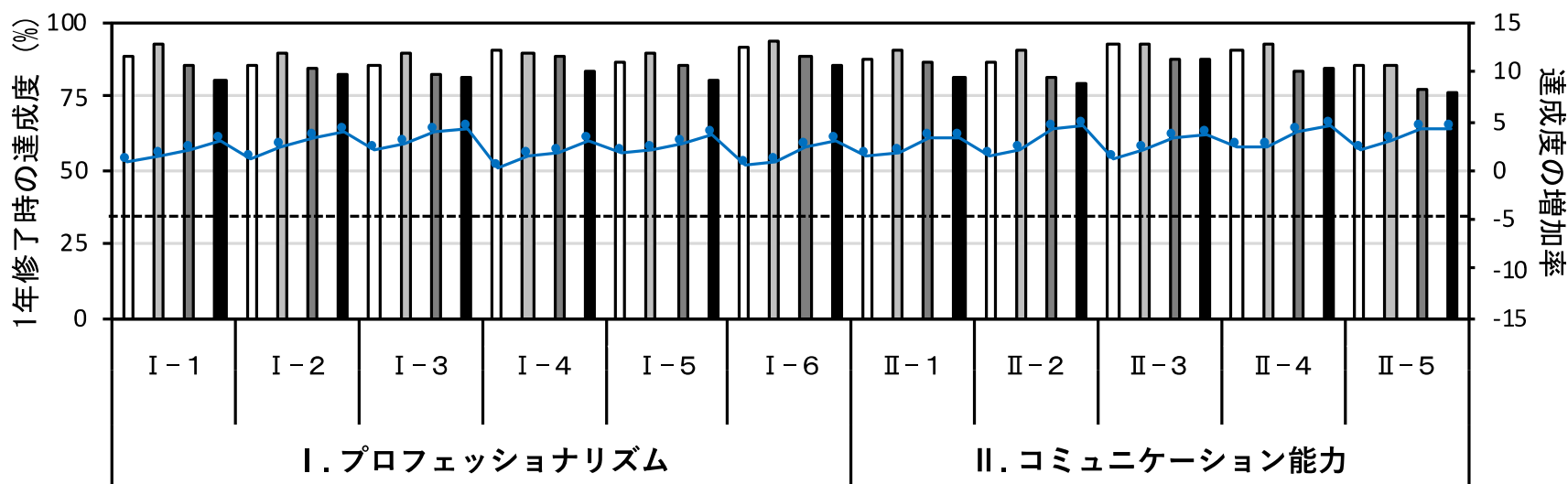
- 十分示せる/できる
- 示せる/できる
- まあまあ示せる/できる
- あまり示せない/できない
- ほとんど示せない/できない
- まったく示せない/できない

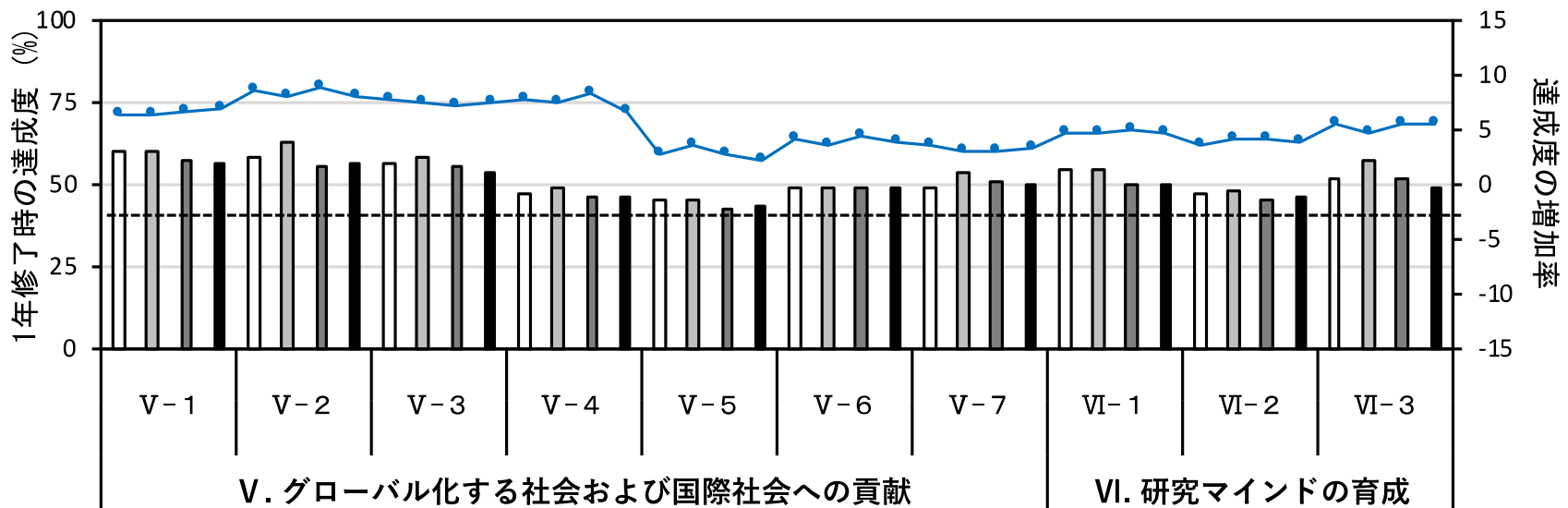
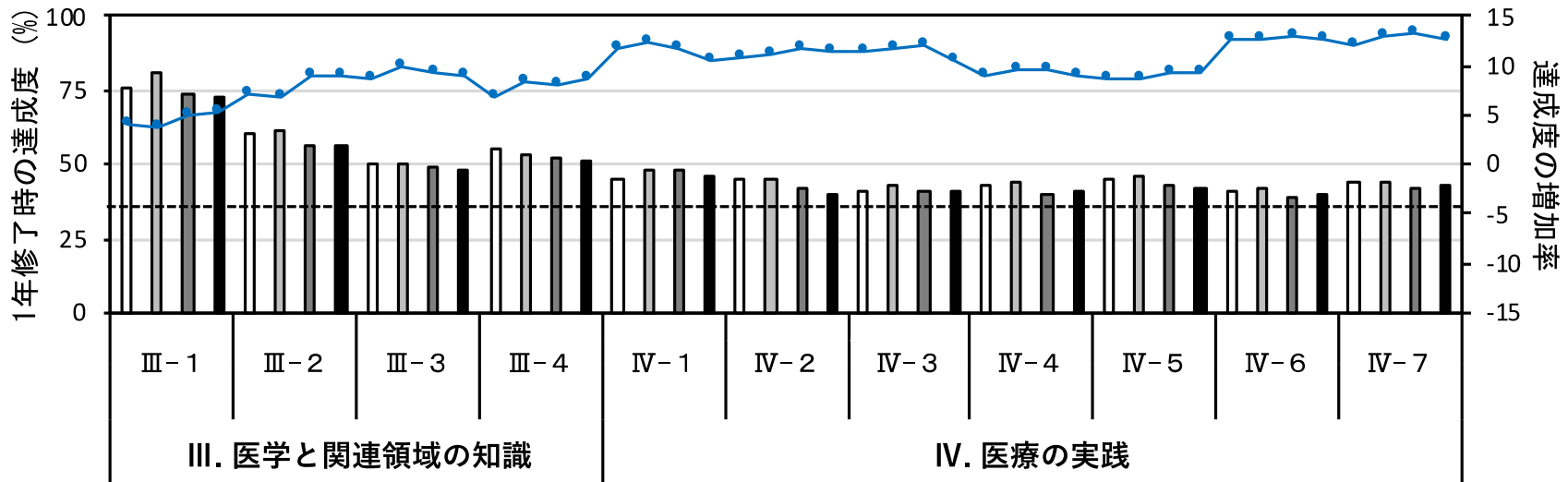
コンピテンシー達成度の推移に関する検討



コンピテンシー達成度の推移

- M2における達成度（知識を）
- ▨ M2における達成度（態度・習慣・価値観として）
- M2における達成度（模擬的現場で）
- M2における達成度（臨床現場で）
- 達成度の増加率





Group 1:

- I. プロフェッショナリズム
- II. コミュニケーション能力
- III. 医学と関連領域の知識
(人体各器官の正常な構造と機能)

Group 2:

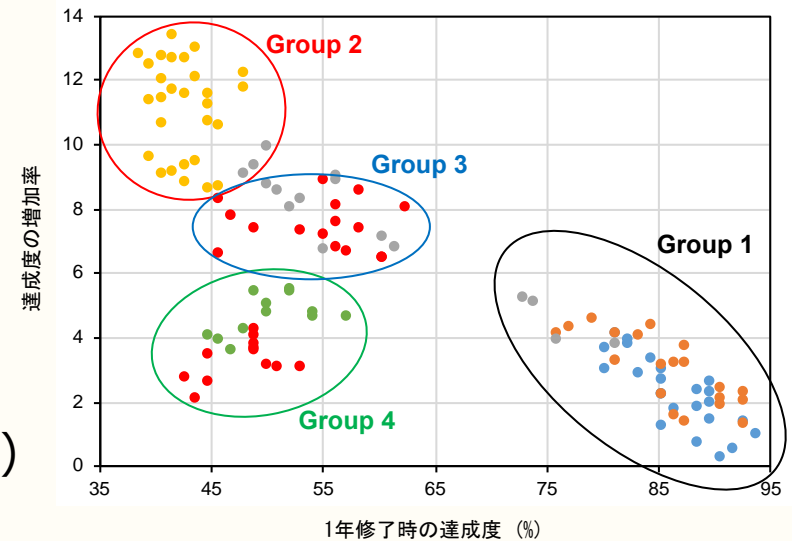
- III. 医学と関連領域の知識
(病態から臨床症状、診断方法や治療方法)
- IV. 医療の実践

Group 3:

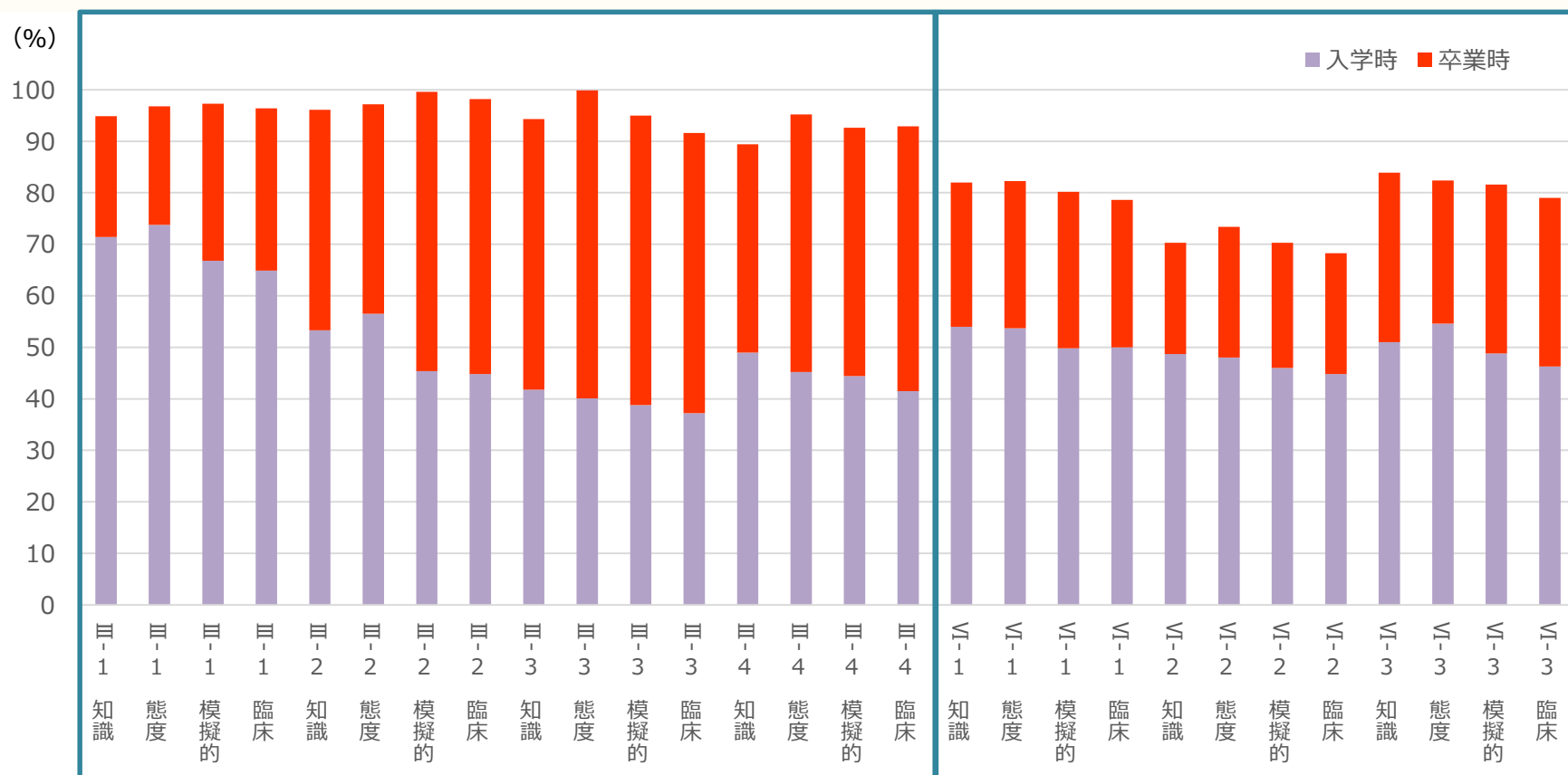
- III. 医学と関連領域の知識 (全身におよぶ生理的変化や構造の異常を説明)
- III. 医学と関連領域の知識 (誕生から発達・成長・加齢・死までの正常と異常)
- V. グローバル化する社会および国際社会への貢献 (保健・医療・福祉の現状)
- V. グローバル化する社会および国際社会への貢献 (疾病予防と健康増進)
- V. グローバル化する社会および国際社会への貢献 (プライマリ・ケアの実践)
- V. グローバル化する社会および国際社会への貢献 (災害医療)

Group 4:

- V. グローバル化する社会および国際社会への貢献 (非日本語母語話者に対応)
- V. グローバル化する社会および国際社会への貢献 (国際的な課題を理解)
- V. グローバル化する社会および国際社会への貢献 (国際社会への貢献)
- VI. 研究マインドの育成



入学時および卒業時のコンピテンシー達成度予想

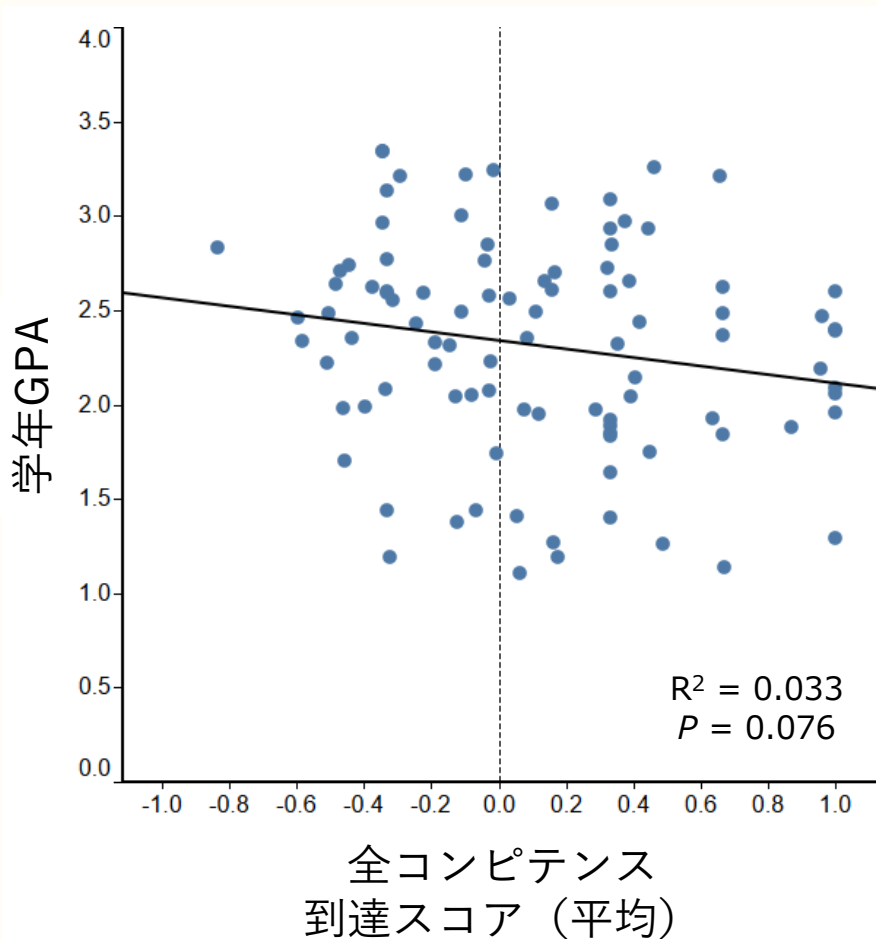


Ⅲ. 医学と関連領域の知識

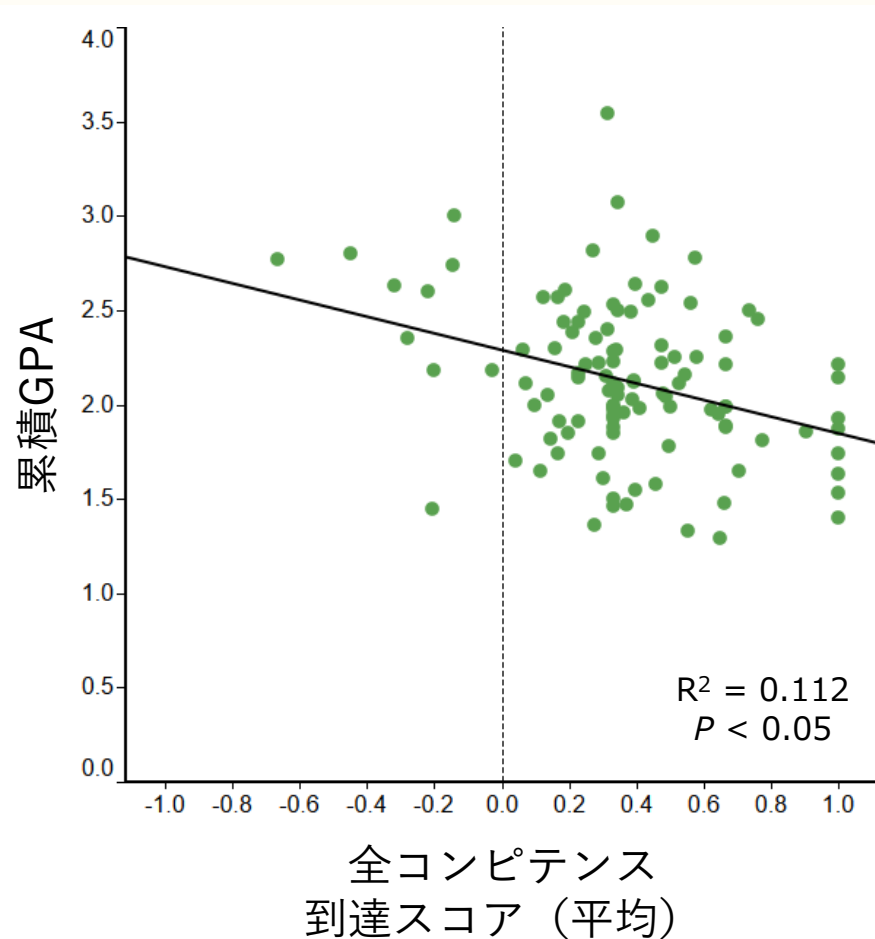
Ⅵ. 研究マインドの育成

コンピテンス到達スコアとGPAとの相関

A学年



B学年



まとめ

1. 全てのコンピテンス・コンピテンシーの達成度は学年を通して上昇した。
2. プロフェッショナリズム、コミュニケーション能力に関する項目では、低学年の段階で達成度が高い傾向が見られた。
3. グローバル化、研究マインドの育成など、達成度の促進が十分でないと考えられる項目を抽出することができた。
4. 本調査結果を用いて入学時および卒業時の達成度を予測できる可能性がある。

川崎医科大学での取り組みについての 事例報告


① 学修成果のGPによる可視化の試み 伏谷

② 学修成果の自己評価による可視化 増田

(コンピテンス・コンピテンシー到達度調査)

👉 ③ **ALCS学修行動比較調査** 伏谷



A photograph of four students (one male and three female) gathered around a laptop, looking at the screen with interest. The image is framed by a white, splatter-like border. The text is overlaid on the center of the image.

学生は
大学での学びを
どのように
とらえているか

ALCS学修行動比較調査2018

入り会い大学

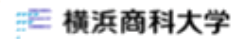
名称の50音順



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY



お茶の水女子大学
Ochanomizu University



横浜商科大学



明星大学
MEISEI UNIVERSITY



宮城大学
MIYAGI UNIVERSITY



フェリス女学院大学



日本女子大学



国立大学法人 奈良女子大学
Nara Women's University



長崎県立大学
UNIVERSITY OF NAGASAKI



東京女子大学



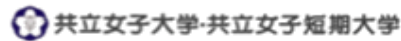
田園調布学園大学
Tokyo Women's Christian University



帝京大学
Teikyo University



津田塾大学
TSUDA UNIVERSITY



共立女子大学・共立女子短期大学



川崎医科大学



嘉悦大学
KAIYOKU UNIVERSITY

教学比較IRコモンズ

16大学の参加

本学は
2017年度より参加

2019年度は
21大学が参加予定

設問内容のカテゴリー

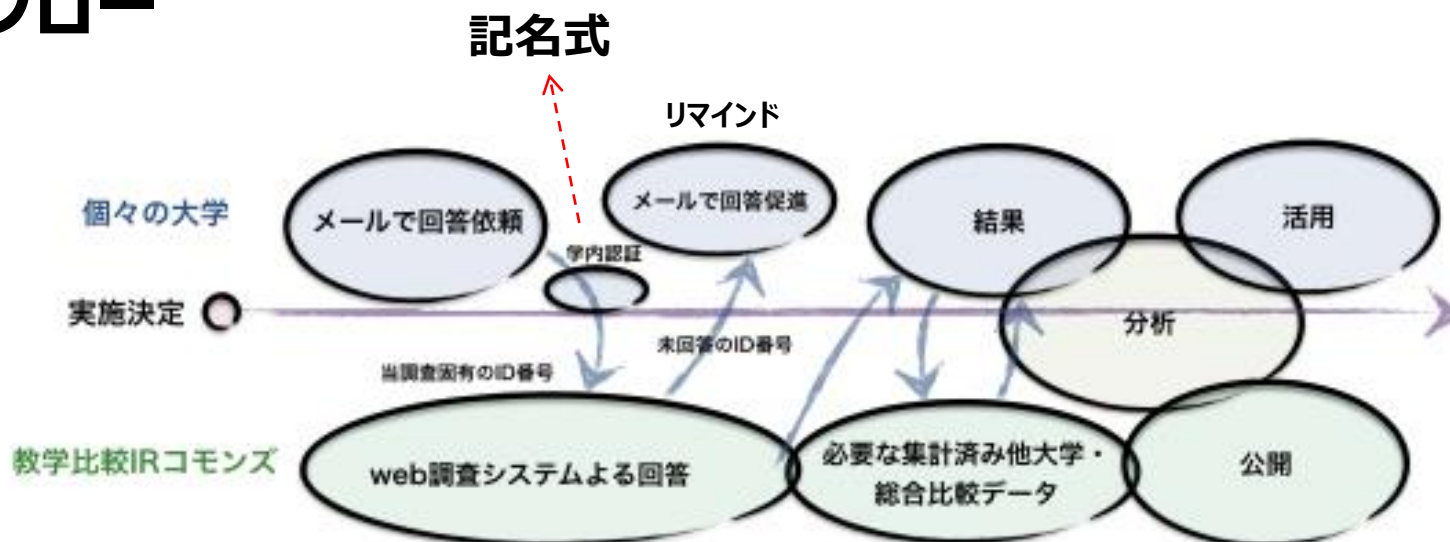
対象学年：1年・3年・5年
※スタンダードの場合 1年・3年

■ 教学比較IRコモンズ：ALCS学修行動比較調査



※具体的な設問項目は別紙資料を参照

実施フロー



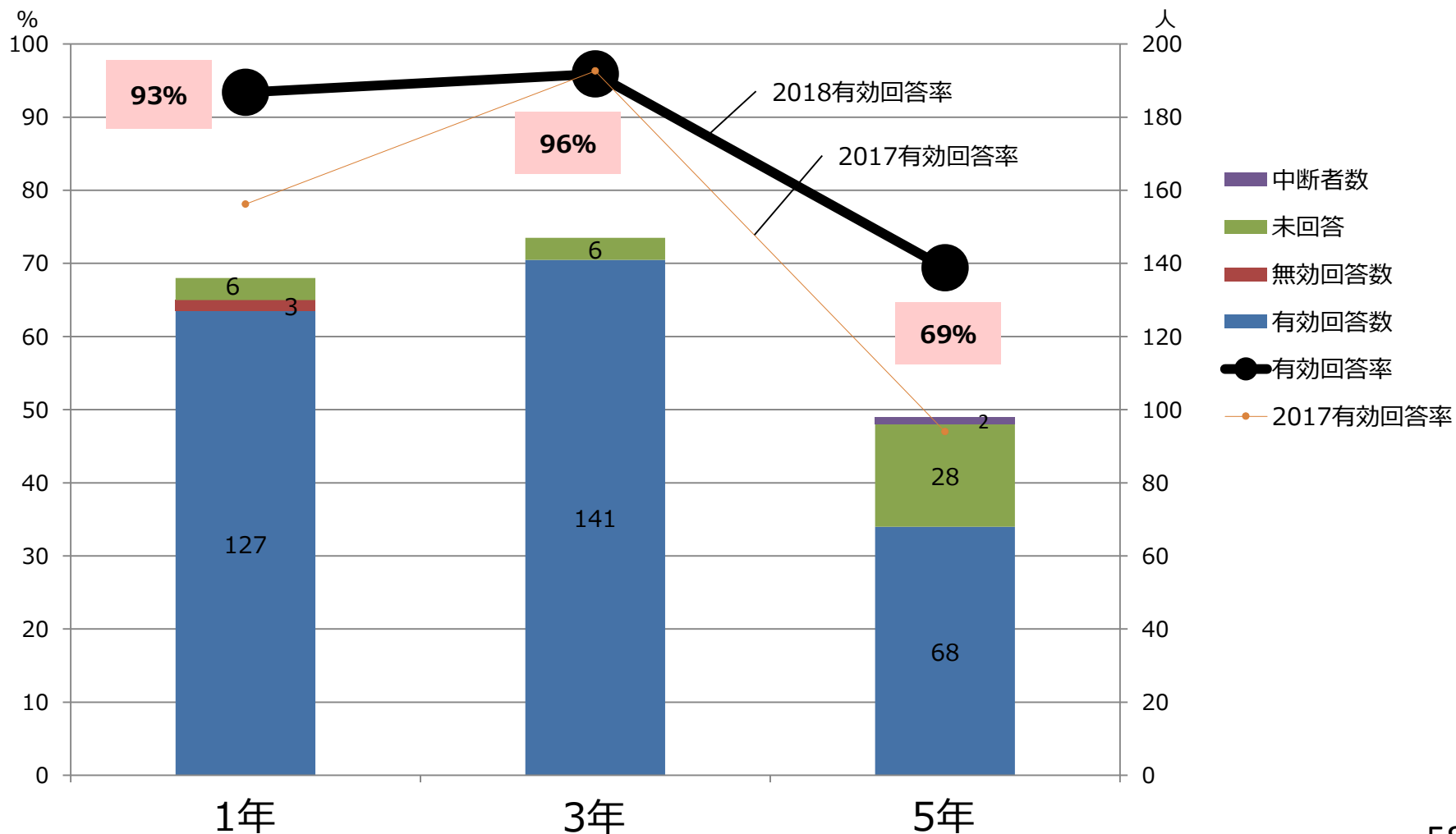
ALCS学修行動比較調査の特徴

- web調査で実施に手間いらず
- 迅速に結果を受けとれる
- 実施費用が格安
- 内部報告会による共有
- 調査自体が行動調整作用を促す教育活動そのものである

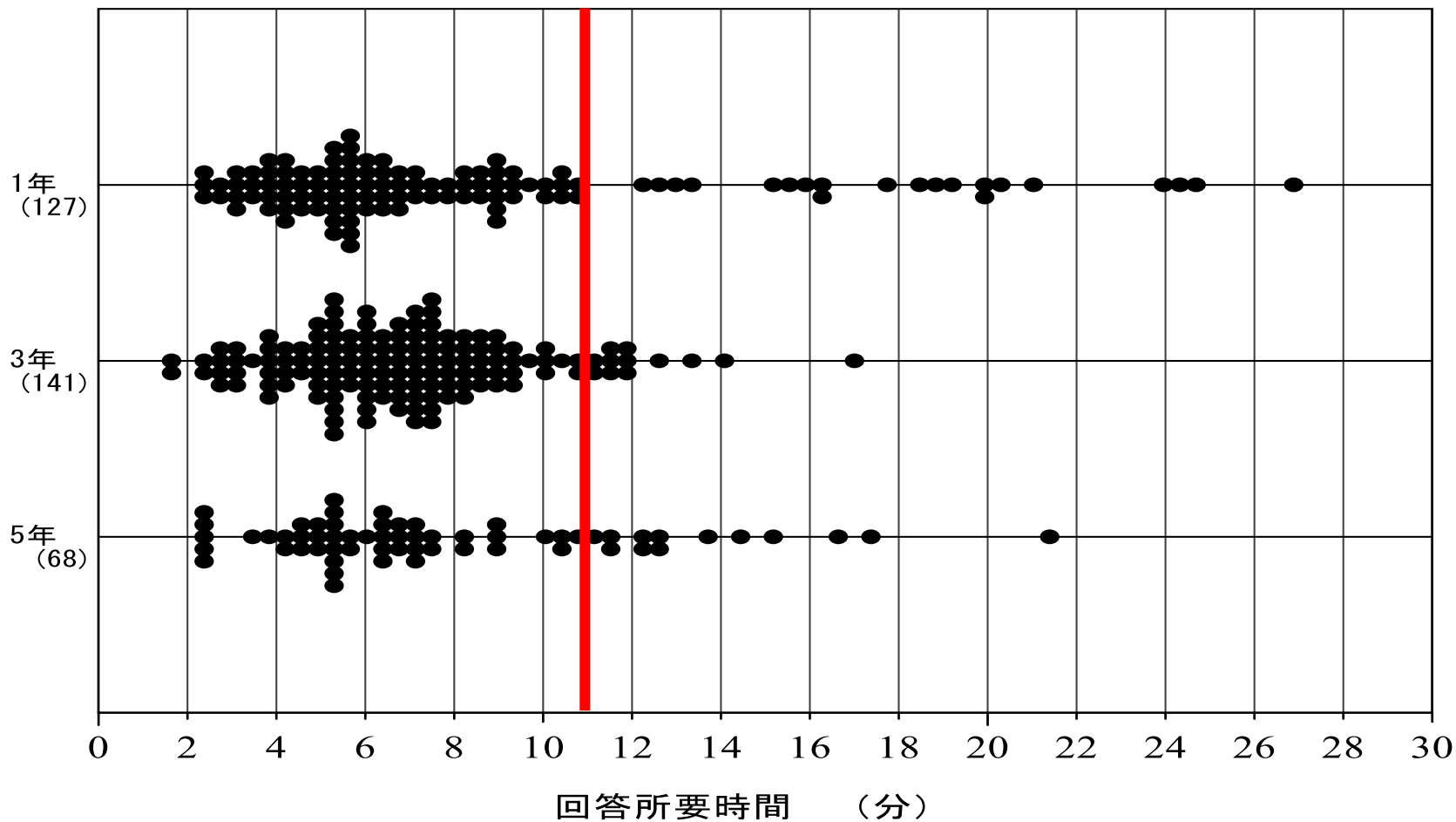


コンピテンス・コンピテンシー
到達度調査も
行動調整作用をもつ

有効回答率 ⇒ 88%

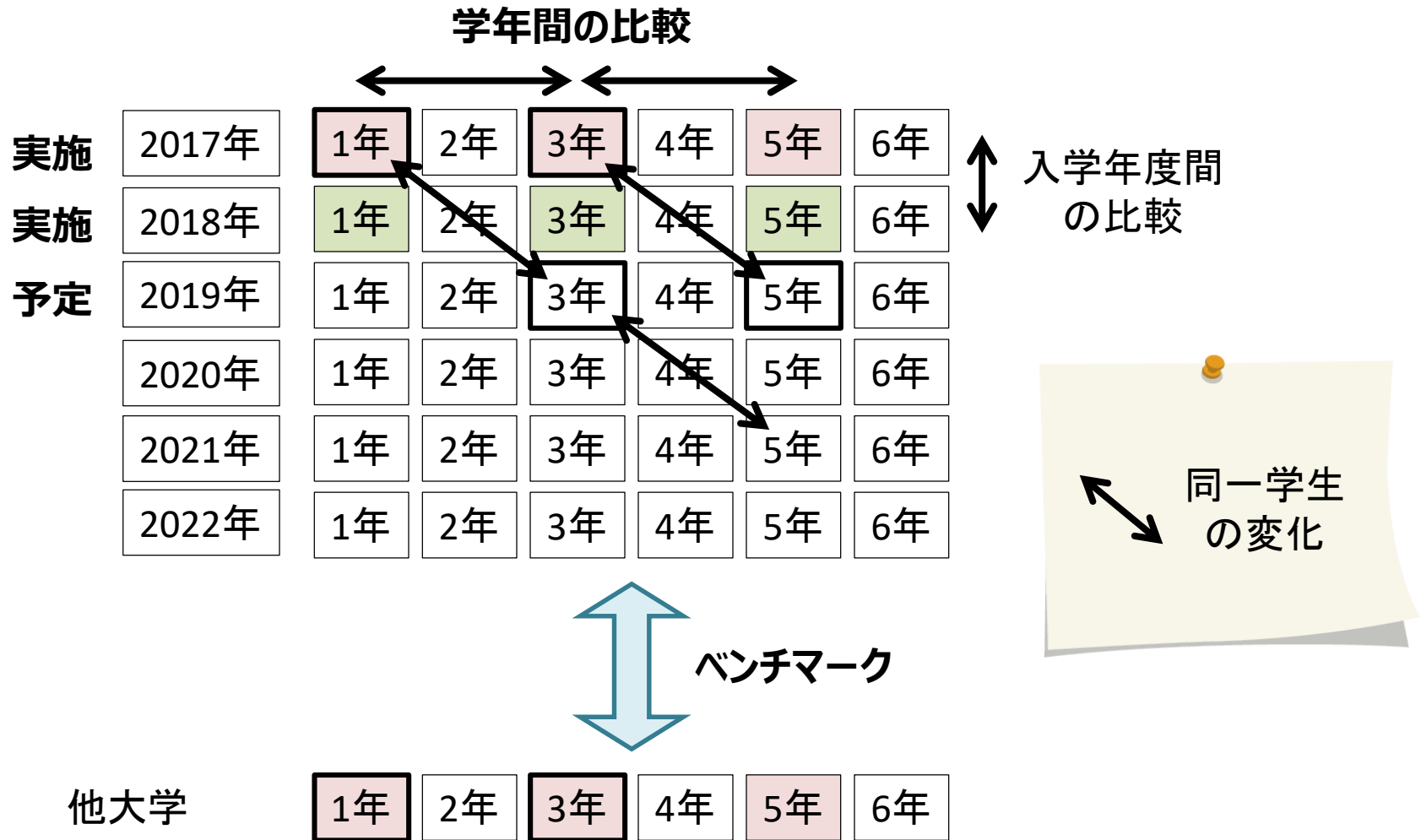


80%の学生が11分以内に回答



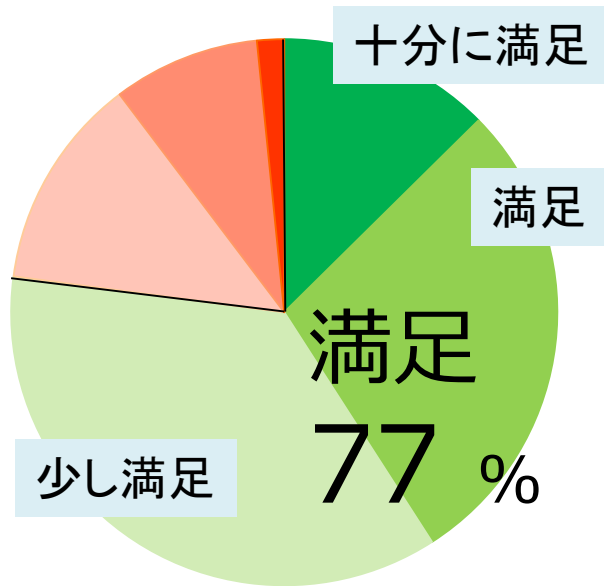
データ分析 比較対象

記名式なので有用なパネルデータとなる

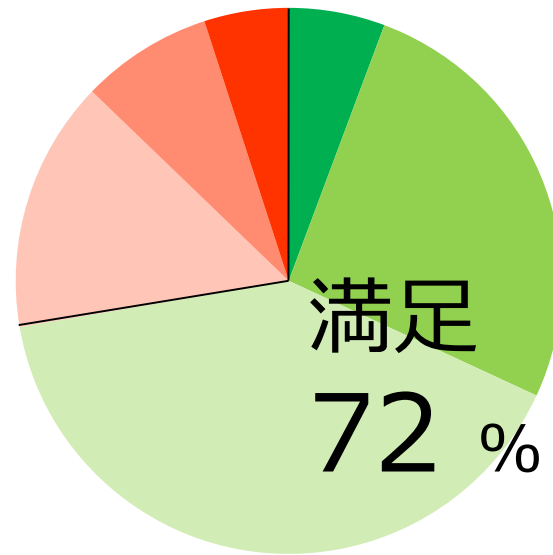


No.60

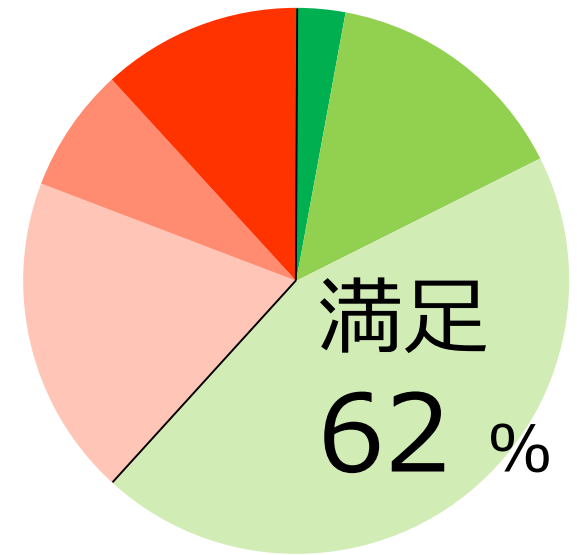
総合的にみて大学の学びに



1年



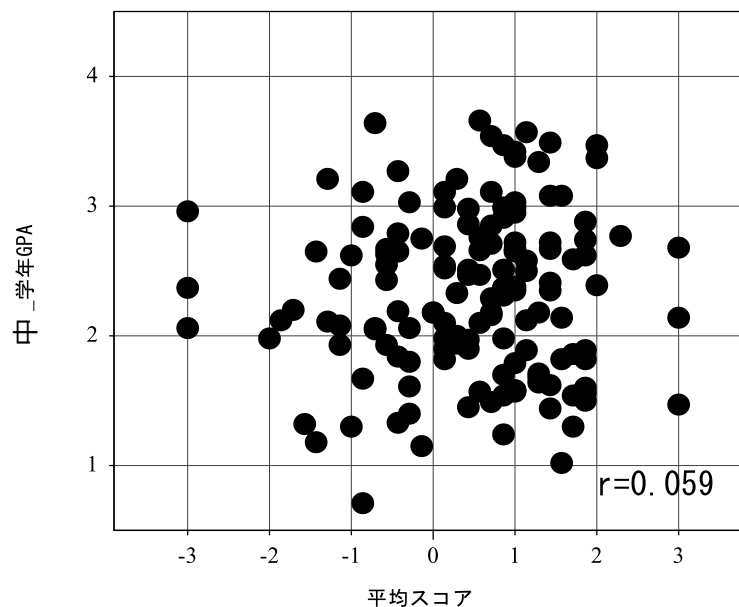
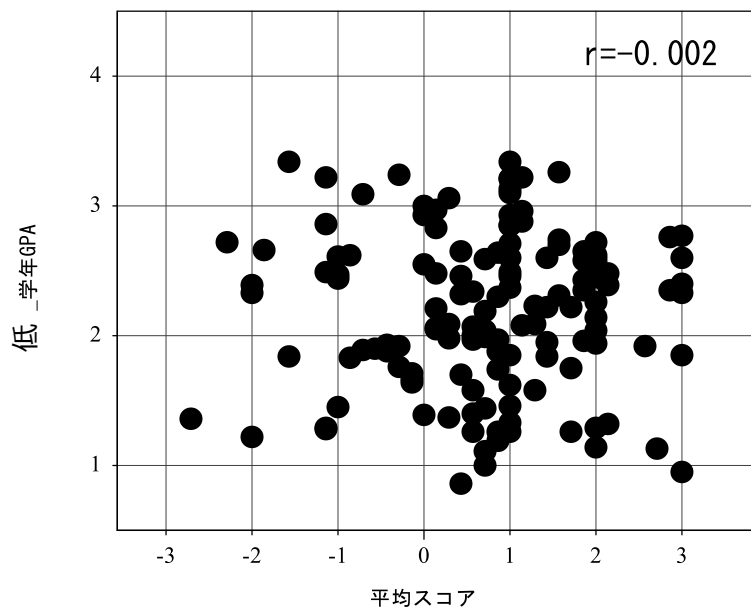
3年



5年

「満足」の平均スコア と GPAの相関

満足の商品 N54 N57 N62 N65 N66 N67 N69 (7項目/18項目)

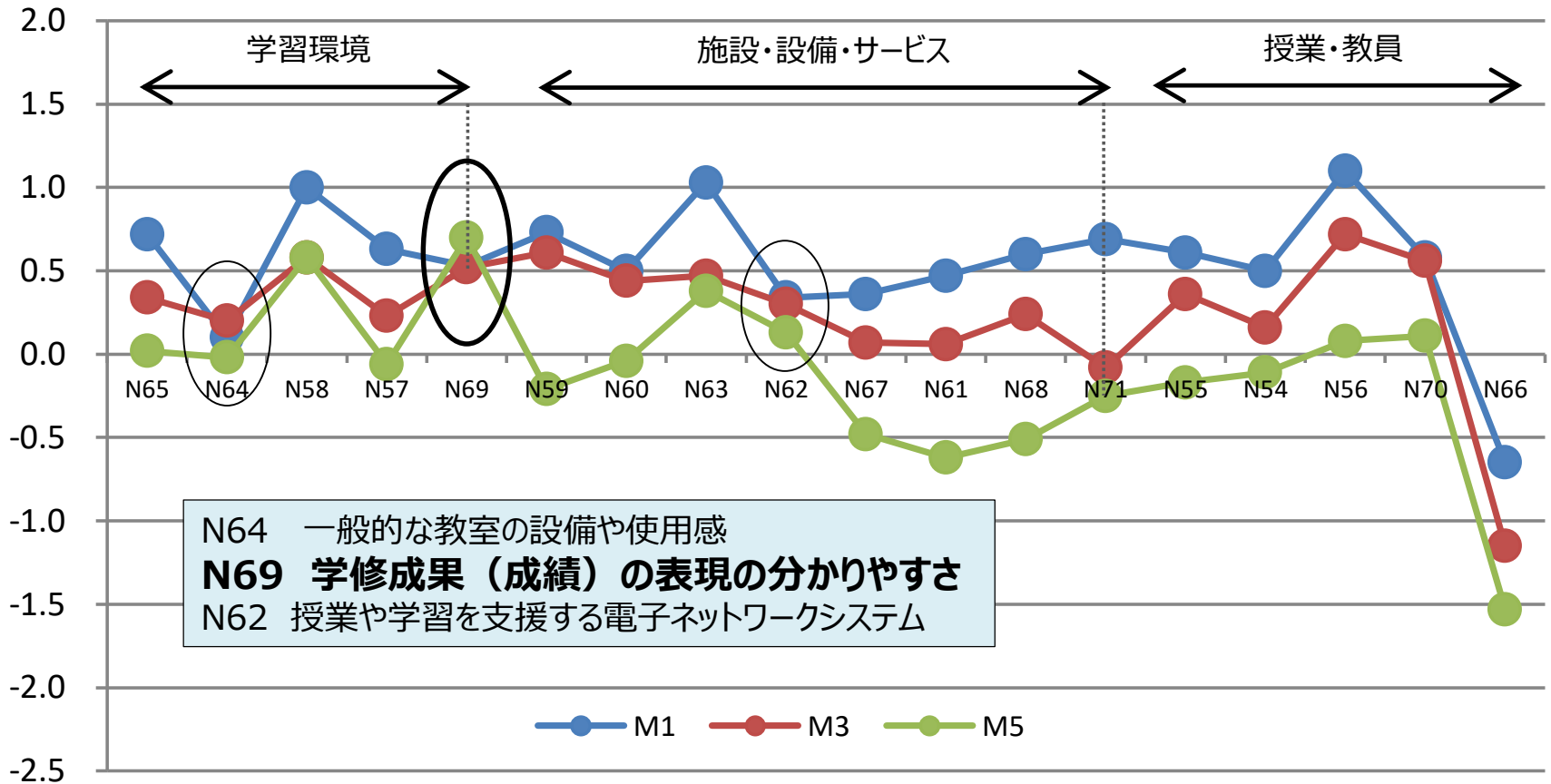


満足度は成績とは相関しない

学年間の差異

スコア
平均値

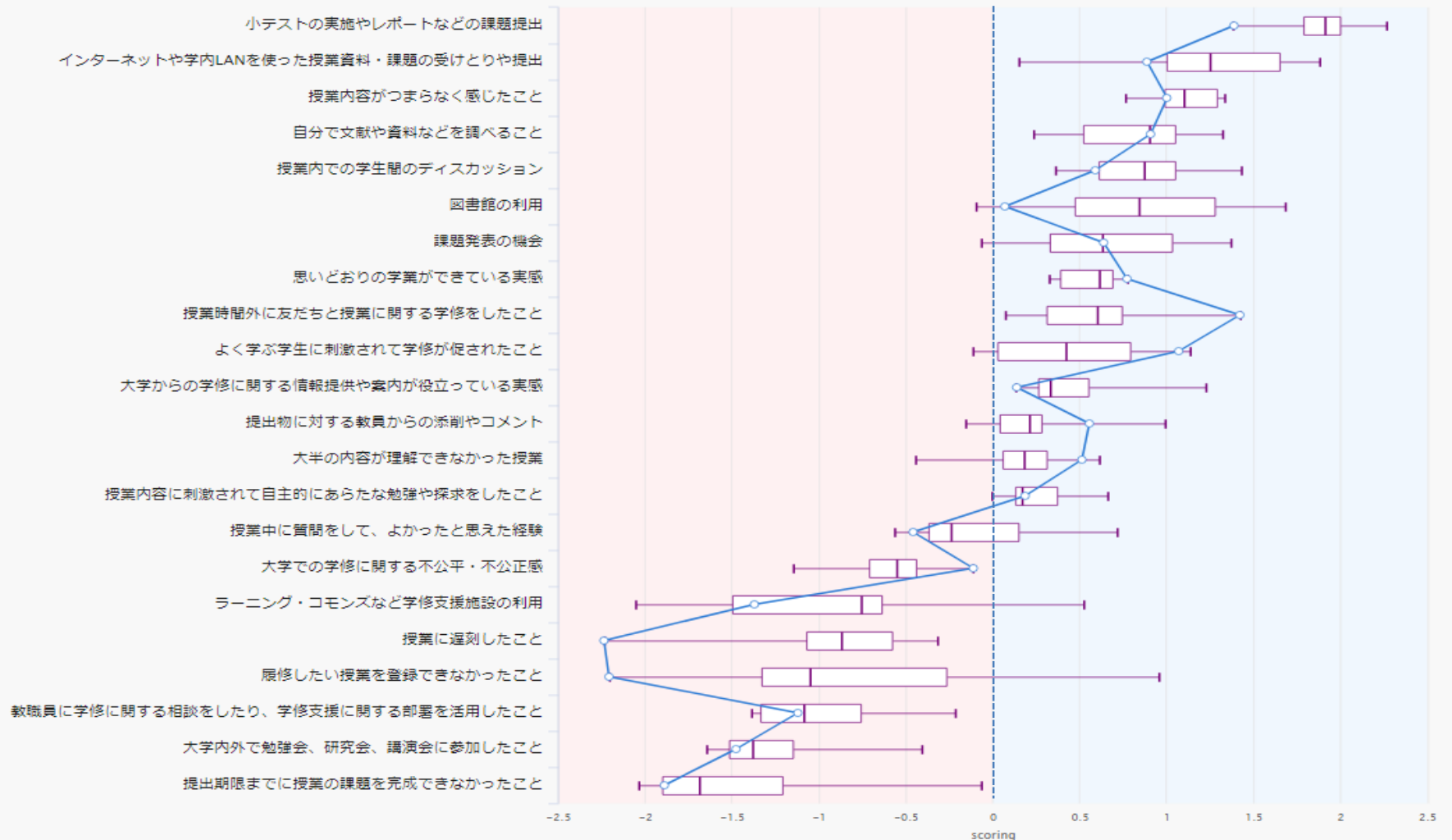
満足



他大学ベンチマークとの比較

「経験」 1年 本学：青線

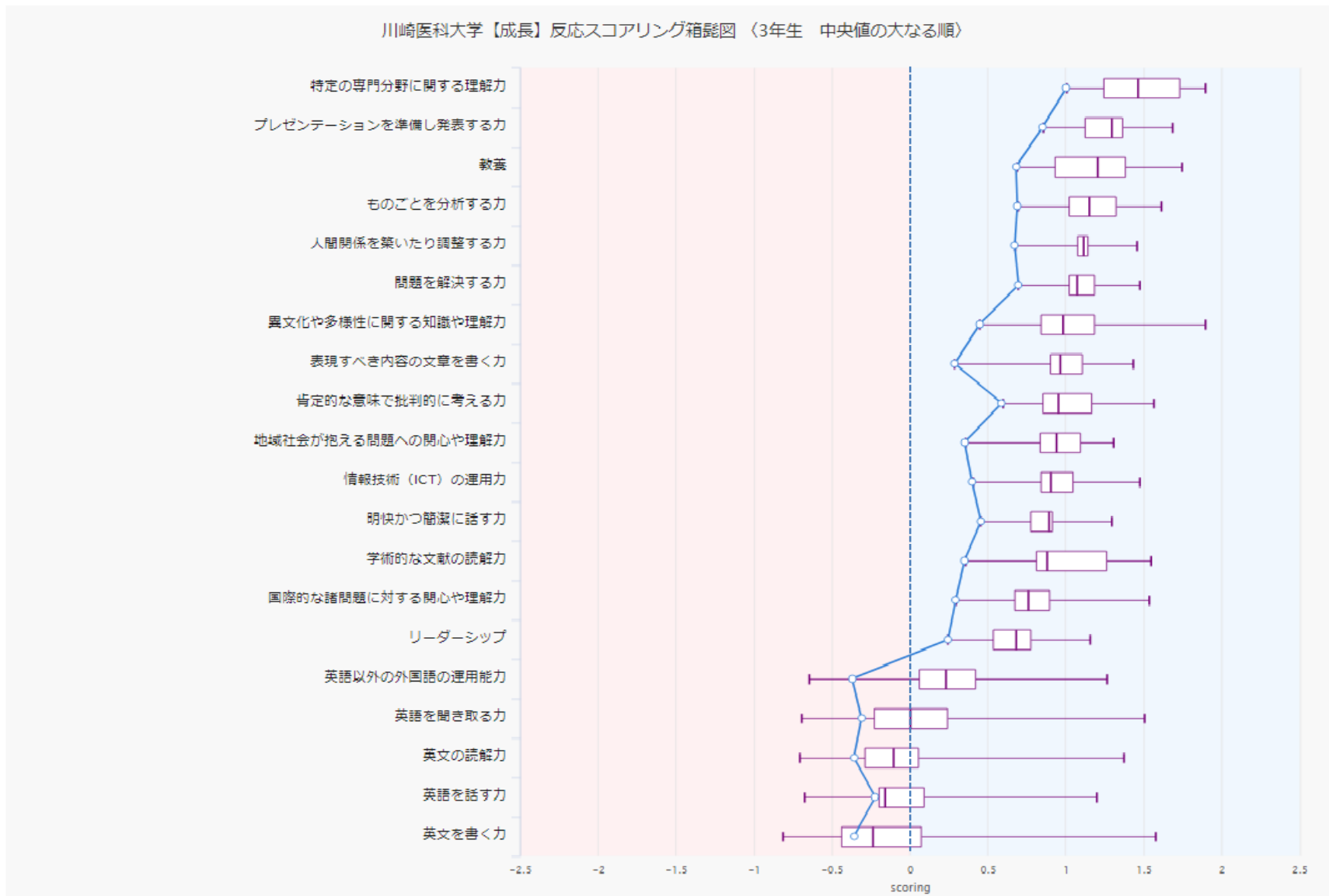
川崎医科大学【経験】反応スコアリング箱髷図 〈1年生 中央値の大なる順〉



次の設問セクション

他方の学年

「成長」3年 本学：青線



次の設問セクション 他方の学年

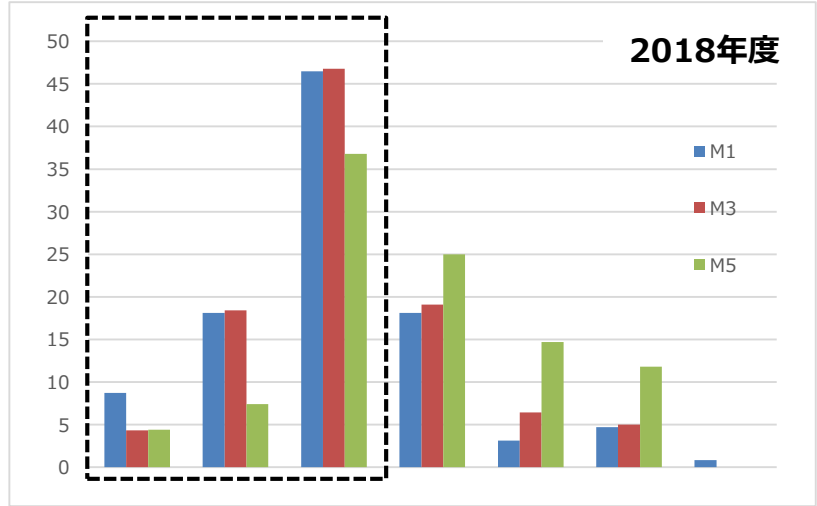
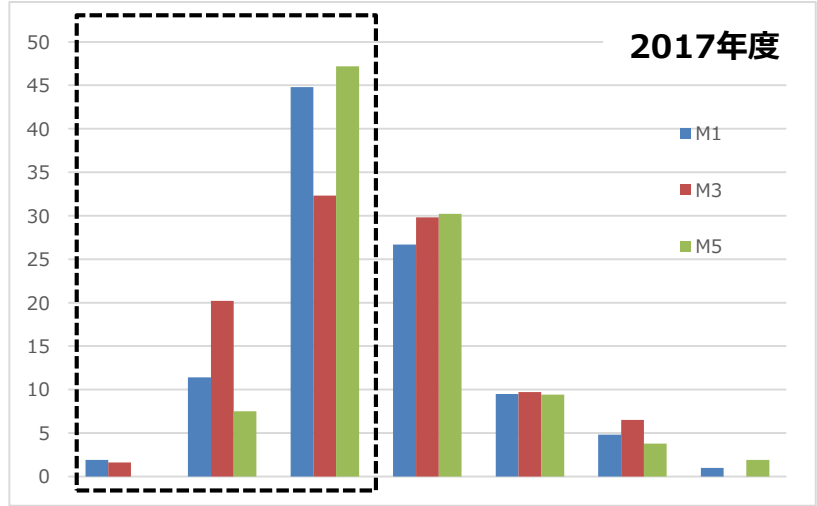
2017 ⇒ 2018 ポジティブに回答した学生がどれだけ増えたか？

かなりよくあった
よくあった
たまにがあった

十分に満足
満足
少し満足

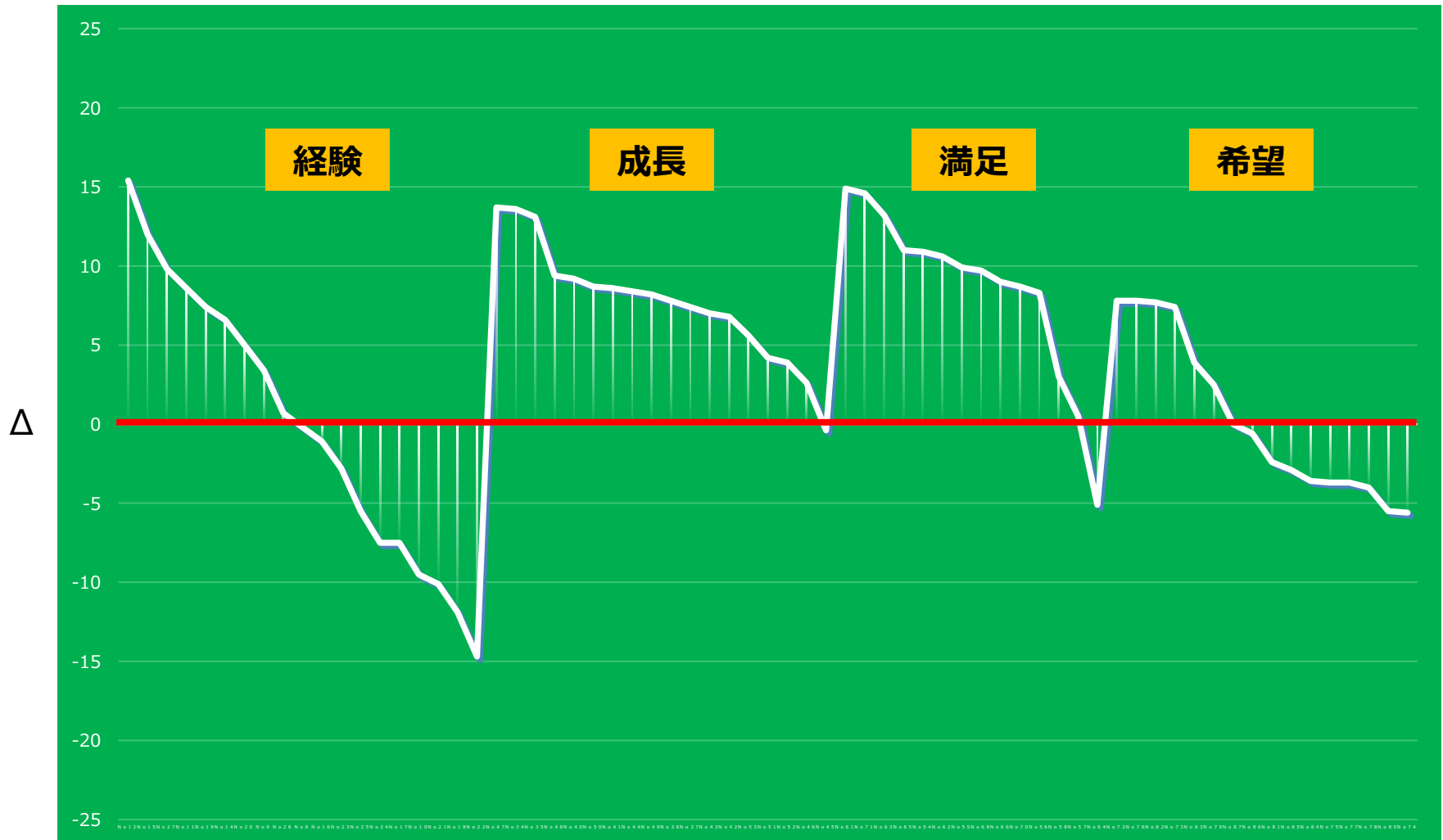
とても増えた
増えた
やや増えた

強く望んでいる
望んでいる
いくぶん望んでいる



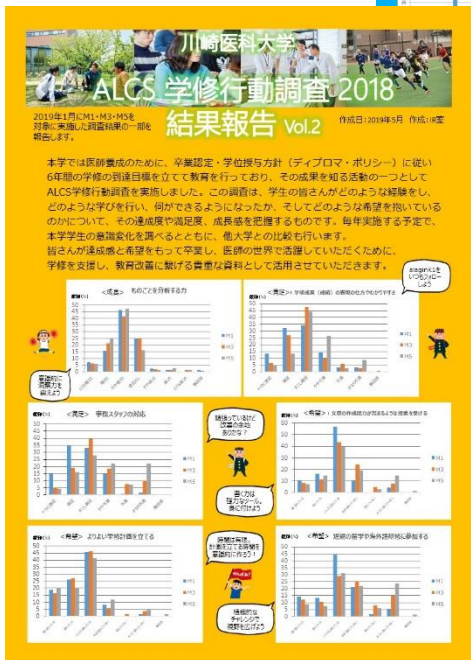
ポジティブ回答の増減 Δ (2018-2017)

本学3年



調査結果の学生へのフィードバックと教育改善への取り組み

ポスター
 (掲示と学内ポータル
 サイトで共有)
 学生・教員・職員

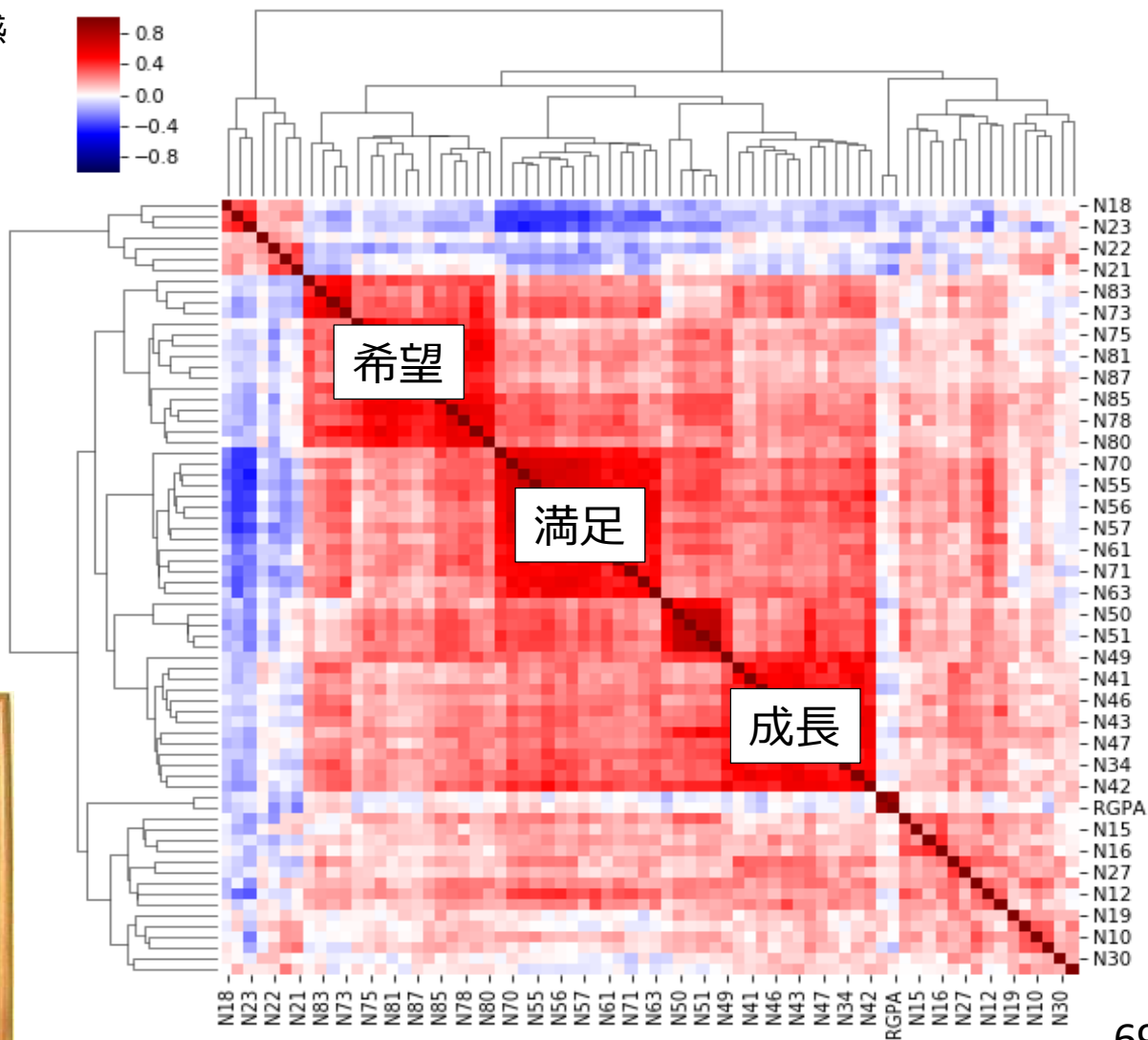
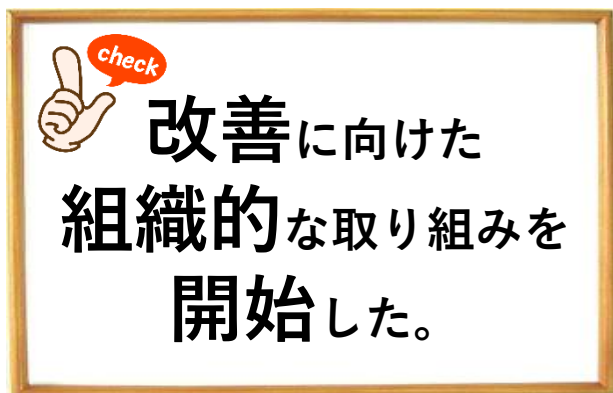


設問に関する相関行列のヒートマップとクラスタリング

- 大学での学習に関する不公平・不公正感
- 履修したい授業を登録できなかったこと
- 大半の内容が理解できなかった
- 授業内容がつまらなく感じたこと



- ① 改善項目の抽出
- ② 具体的な改善の取り組み
- ③ その効果を図るための指標化



まとめ

① 学修成果のGPによる可視化の試み

科目のGPを用いてコンピテンンス・コンピテンシーを可視化できる可能性が示された。

② 学修成果の自己評価による可視化

コンピテンシーの達成が不十分なものが抽出された。

入学時および卒業時の達成度が予測できる可能性が示された。

③ ALCS学修行動比較調査

学修時間や成長実感・学習意欲を含む多くの内容を可視化できた。
改善指標として調査を継続する必要がある。

ご清聴ありがとうございました

